

官報

號外 昭和十六年二月二十三日

第七十六回 衆議院議事速記録第十七號

昭和十六年二月二十二日(土曜日)

午後一時十分開議

議事日程 第十六號

昭和十六年二月二十二日

午後一時開議

第一 陸軍軍法會議法中改正法律案

(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第二 海軍軍法會議法中改正法律案

(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

昭和十四年度第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計

第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計

豫備費支出ノ件

昭和十五年度第二豫備

金支出ノ件

昭和十五年度特別會計

第二豫備金支出ノ件

昭和十五年度特別會計

豫備金外豫算超過及豫算外支出ノ件

承諾ヲ求ムル件

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

一 昨二十一日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

國家總動員法中改正法律案

昭和十二年法律第九十二號中改正法律案

(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件)

衆議院議員ノ任期延長ニ關スル法律案

府縣會議員、市町村會議員等ノ任期延長ニ關スル法律案

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

官幣大社伊弉諾神社ヲ神宮ニ改稱ニ關スル建議案

提出者 立川 平君

中部千島開發ニ關スル建議案

提出者 山本 厚三君 助川啓四郎君

青山 憲三君 東條 貞君

(以上二月二十日提出)

國策會社ノ整理ニ關スル建議案

提出者 高田 松平君 松村 光三君

津雲 國利君 青木 精一君

(以上二月二十一日提出)

一 議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

歸還將兵ノ待遇ニ關スル質問主意書

提出者 山道 襄一君

(以上二月二十日提出)

一 去二十日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ

第二部選出豫算委員 泉 國三郎君

一 去二十日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ

第四部選出 決算委員 河合 義一君(淺沼稻次郎君補關)

一 去二十日特別委員理事補關選舉ノ結果左ノ如シ

昭和十二年法律第九十號中改正法律案(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)委員

理事愛野時一郎君(理事岡田喜久治君去二十日委員辭任ニ付其ノ補關)

一 去二十日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

昭和十二年法律第九十號中改正法律案(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)委員

理事愛野時一郎君(理事岡田喜久治君去二十日委員辭任ニ付其ノ補關)

一 去二十日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

昭和十二年法律第九十號中改正法律案(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)委員

理事愛野時一郎君(理事岡田喜久治君去二十日委員辭任ニ付其ノ補關)

一 去二十日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

昭和十二年法律第九十號中改正法律案(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)委員

理事愛野時一郎君(理事岡田喜久治君去二十日委員辭任ニ付其ノ補關)

一 去二十日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

昭和十二年法律第九十號中改正法律案(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)委員

理事愛野時一郎君(理事岡田喜久治君去二十日委員辭任ニ付其ノ補關)

一 去二十日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

昭和十二年法律第九十號中改正法律案(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)委員

理事愛野時一郎君(理事岡田喜久治君去二十日委員辭任ニ付其ノ補關)

一 去二十日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

昭和十二年法律第九十號中改正法律案(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)委員

理事愛野時一郎君(理事岡田喜久治君去二十日委員辭任ニ付其ノ補關)

常任委員左ノ如シ

第三部選出豫算委員 北 吟吉君

第五部選出請願委員 阿部 茂夫君

第六部選出請願委員 加藤 謙造君

第八部選出豫算委員 前田房之助君

一 昨二十一日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ

第二部選出 豫算委員 西方 利馬君(泉國三郎君補關)

一 昨二十一日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

木材統制法案(政府提出)委員

辭任工藤十三雄君 補關井阪 豐光君

民法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外二件委員

辭任松井 郡治君 補關手代木隆吉君

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマ

ス、日程第一及び第二ハ、同一委員ニ付託

シタル議案デアリマスカラ、一括議題トナ

スニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ日程第一、陸軍軍法會議法中改正

法律案、日程第二、海軍軍法會議法中改正

法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ

開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス、委

員長高見之通君

第一 陸軍軍法會議法中改正法律案 (政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第二 海軍軍法會議法中改正法律案 (政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

報告書

一 陸軍軍法會議法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十一日

委員長 高見 之通

衆議院議長 小山松壽殿

報告書

一 海軍軍法會議法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十一日

委員長 高見 之通

衆議院議長 小山松壽殿

(高見之通君登壇)

○高見之通君 只今議題トナリマシタ陸軍及ビ海軍ノ軍法會議法中改正法律案特別委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス

本法律案ノ要旨ヲ申上ゲマス、陸海軍共通ノ點ハ、第一ハ、專變後軍務繁劇等ノ事情カラ致シマシテ、裁判官タル判士ノ召

集方非常ニ困難トナリマシタノデ、高等軍法會議以外ノ常設軍法會議ニ於キマシテハ、戰時事變ノ際ニ限ツテ判士二名ヲ減シ得ルコトト致スコト

第二ハ、軍司法警察官ノ職務ヲ行フ部隊長ハ、陸軍ニ於テハ部下ノ兵科將校、海軍ニ於テハ部下ノ將校ニ委ネテ職務ヲ執ラシメテ居ツタノデアリマス、ソレヲ今回陸軍ニ於テハ各部將校、海軍ニ於テハ將校相當官ニモ、其ノ職務ヲ委ネ得ルコトト致スコト

第三ハ、特定ノ事件ガ數箇ノ軍法會議ノ管轄ニ屬シテ居リマス場合ノ事件送致ニ關シテ、不便ノ點ガアリマスノヲ改メント致スコト

第四ハ、南洋群島ニ於ケル軍法會議法ノ運用ニ關シマシテ、不備ノ點ガアリマスノデ、之ヲ補整セシト致スコト等デアリマス

尙ホ以上ノ外ニ陸軍ノミニ改正點ガアリマス、ソレハ先般編成セラレマシタ東部、中部、西部及ビ北部ノ各軍ニ、軍法會議ヲ常設スルコトニナリマシテ、又特設軍法會議ヲ合圍地軍法會議及ビ臨時軍法會議ノ二種類ト致シ、是等各種軍法會議ノ管轄ニ關スル規定ヲ整備致スコト、並ニ軍法會議ヲ構成スル判士ノ階級ニ關スル規定ヲ改ムルコト等デアリマス

本委員會ハ二月二十日及ビ二十一日ノ兩日會議ヲ開キ、各委員ヨリ熱心ナル質問ヲナシマシテ、政府委員ヨリ懇切ナル答辯ガ

アリマシタガ、其ノ詳細ハ速記録ニ依ツテ御承知ヲ願ヒマス、而シテ討議ニ入り、北村委員ノ動議ニ依リマシテ、全會一致政府原案通り可決致シマシタ、以上ヲ以テ特別委員會ノ御報告ト致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

陸軍軍法會議法中改正法律案 第二讀會(確定議)

海軍軍法會議法中改正法律案 第二讀會(確定議)

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセヌカ、第三讀會ヲ省略シテ、兩案トモ委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○服部崎市君 此ノ際委員ニ付託シタル議案ノ審査終了ヲ待ツ爲メ、暫時休憩セラレシコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ暫時休憩致シマス

午後一時十七分休憩

午後四時六分開議

○副議長(田子一民君) 休憩前ニ引續キ會議ヲ開キマス

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出、人造石油製造事業法中改正法律案、帝國燃料興業株式會社法中改正法律案、及ビ帝國石油株式會社法案、右三案ヲ一括議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子一民君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——人造石油製造事業法中改正法律案、帝國燃料興業株式會社法中改正法律案、帝國石油株式會社法案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長川島正次郎君

人造石油製造事業法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告) 帝國燃料興業株式會社法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告) 帝國石油株式會社法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一人造石油製造事業法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十二日

委員長 川島正次郎

衆議院議長小山松壽殿

附帶決議

一 内地石油資源ノ開發ニ就テハ更ニ積極的ノ方途ヲ講ズベシ

二 石炭需給ノ實情ニ徴シ政府ハ石炭増産對策ニ付更ニ積極的の方策ヲ講ジ生産費及販賣機構等ニ付キ再檢討ヲ爲シ資材勞力ニ付テハ眞ニ優先的配給ノ實現ヲ期スベシ

三 速ニ日本石炭株式會社ヲシテ其ノ運營ヲ刷新セシムルト共ニ生産所要資金ノ圓滑ヲ期スベシ

報告書

一 帝國燃料興業株式會社法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十二日

委員長 川島正次郎

衆議院議長小山松壽殿

(別紙)

(小字及一ハ委員會修正)

帝國燃料興業株式會社法中改正法律案中左ノ通修正ス

第十條第二項中「株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命ジ」ヲ「株主總會ニ於テ之ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クルモノトシ」ニ改メ同條第三項中「株主中ヨリ」ヲ削ル

次ニ左ノ一項ヲ加フ
石油事業ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五年間帝國燃料興業株式會社ノ役員ト爲ルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

附帶決議
一 内地石油資源ノ開發ニ就テハ更ニ積極的ノ方途ヲ講ズベシ

二 石炭需給ノ實情ニ徴シ政府ハ石炭増産對策ニ付更ニ積極的の方策ヲ講ジ生産費及販賣機構等ニ付キ再檢討ヲ爲シ資材勞力ニ付テハ眞ニ優先的配給ノ實現ヲ期スベシ

三 速ニ日本石炭株式會社ヲシテ其ノ運營ヲ刷新セシムルト共ニ生産所要資金ノ圓滑ヲ期スベシ

報告書

一 帝國石油株式會社法案(政府提出) 右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十二日

委員長 川島正次郎

(別紙)

(小字ハ委員會修正)

帝國石油株式會社法案中左ノ通修正ス
第九條 總裁及副總裁ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クルモノトシ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

石油事業ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五年間帝國石油株式會社ノ役員ト爲ルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

附帶決議
一 内地石油資源ノ開發ニ就テハ更ニ積極的ノ方途ヲ講ズベシ

二 石炭需給ノ實情ニ徴シ政府ハ石炭増産對策ニ付更ニ積極的の方策ヲ講ジ生産費及販賣機構等ニ付キ再檢討ヲ爲シ資材勞力ニ付テハ眞ニ優先的配給ノ實現ヲ期スベシ

三 速ニ日本石炭株式會社ヲシテ其ノ運營ヲ刷新セシムルト共ニ生産所要資金ノ圓滑ヲ期スベシ

(川島正次郎君登壇)

○川島正次郎君 只今上程致サレマシク人造石油製造事業法中改正法律案、帝國燃料興業株式會社法中改正法律案並ニ帝國石油株式會社法案ノ三法案ニ付キマシテ、委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス

人造石油製造事業法中改正法律案ハ、今後人造石油ノ生産ガ多量且ツ多種類トナルニ從ヒマシテ、品種別ニソレノ異リタル獎勵金ヲ交付致シマスコトノ煩瑣ナルコトヲ避ケ、併セテ外地及ビ滿洲ニ於ケル製品ノ内地ニ移輸入ニ對シ保護ヲスル必要上、現行ノ獎勵金交付制度ヲ廢止致シマシテ、人造石油製品ハ、生産費及ビ相當ノ利益ヲ參酌セル價格ヲ公定販賣セシムルコトニ改正スルト共ニ、生産ニ關シ必要ナル事項ヲ命ジ得ルヤウ改正ナサントスルモノデアリマス

帝國燃料興業株式會社法中改正法律案ハ、同社ノ資金計畫ヲ擴充スル必要ヲ認め、社債發行限度ヲ五倍ニ擴充スルト共ニ、役員選任ノ方法ヲ一部改正セントスルモノデアリマス

又帝國石油株式會社法案ハ、産業上並ニ國防上極メテ重要ナル資源デアリマス石油資源ヲ積極的ニ開發シ、其ノ自給ヲ確保致シマスル爲メ、此ノ石油資源開發事業及ビ之ニ關聯スル事業ヲ經營スル帝國石油株式會社ヲ創立セントスルモノデアリマシテ、其ノ資本金ハ一億圓、其ノ半額ヲ政府出資

ト致シマシテ、既存ノ帝國石油資源開發株式會社ヲ吸收シ、之ニ新タナル民間出資ヲ加ヘントスルモノデアリマス

委員會ニ於キマシテハ、獨リ以上三法案ノ内容ノミナラズ、我が國液體燃料政策全般ノ事項ニ付テ嚴重ナル檢討ヲ加ヘマシタ、即チ人造石油事業ノ建設用資材、天然石油資源ノ開發資材、竝ニ必要ナル技術者ノ充足、石油試掘助成制度等ニ關スルコトガ主タル問題デアリマシテ、三回ニ互リ秘密會ヲ開催致シマシテ、石油事情ニ付キマシテ、政府ノ詳細ナル説明ヲ求めタノデアリマス、殊ニ人造石油ノ原料タル石炭増産計畫ニ付テハ、最モ深刻ナル質疑應答ヲ繰返サレマシタ、石炭所要數量ノ確保ノ爲ニハ、勞働力資材及ビ金融等ノ各方面ニ互リ積極の方策ヲ必要トシ、殊ニ補助金政策デハ到底増産目的ヲ達シ難イカラ、單價ノ引上ゲヲナスベシトノ意見ニ致シマシテ、政府ハ現在ノ補助金制度ヲ以テ所期ノ増産ヲナシ得ル確信ガアルカラ、今日單價ノ引上ゲヲナス考ヘハナイト云フ答辯ガアリマシタ、質疑終了後討論ニ入りマシテ、佐藤謙之輔君ヨリ法案ノ一部ニ對スル修正案ガ提出サレマシタ、即チ帝國燃料興業株式會社法中改正法律案ニ對シマシテハ

ズ但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
又帝國石油株式會社法案ニ對シマスル修正事項ト致シマシテハ

第二章第九條ノ末項ニ左ノ一項ヲ加フ
石油事業ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五年間帝國石油株式會社ノ役員ト爲ルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

尙ホ以上三法案ニ對スル附帶決議ト致シマシテ

一 内地石油資源ノ開發ニ就テハ更ニ積極的ノ方途ヲ講ズベシ

二 石炭需給ノ實情ニ徴シ政府ハ石炭増産對策ニ付、更ニ積極の方策ヲ講ジ、生産費及販賣機構等ニ付再檢討ヲ爲シ資材勞力ニ付テハ眞ニ優先的配給ノ實現ヲ期スベシ

三 速ニ日本石炭株式會社ヲシテ其ノ運営ヲ刷新セシムルト共ニ生産所要資金ノ圓滑ヲ期スベシ

以上三點デアリマス、之ニ對シマシテ川俣清音君竝ニ深澤豐太郎君ヨリ賛成ノ意見ガ陳述サレマシタ、討論終結後採決ノ結果、滿場一致ヲ以テ三案トモ可決致シマシタ、以上御報告申上ゲマス(拍手)

○副議長(田子一民君) 三案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子一民君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

人造石油製造事業法中改正法律案
第二讀會(確定議)
帝國燃料興業株式會社法中改正法律案
第二讀會(確定議)
帝國石油株式會社法案
第二讀會(確定議)

○副議長(田子一民君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長報告通り確定致シマシタ(拍手)

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際政府提出、農地開發法案ヲ議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求め、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子一民君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ。農地開發法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス。委員長村上國吉君

農地開發法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 農地開發法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此候及報告候也

昭和十六年二月二十二日

委員長 村上 國吉

衆議院議長 小山松壽殿

希望條項

一、政府ハ本計畫實施ニ當リテハ更ニ周到ノ注意ヲ以テ勞力配置動員ニ萬全ヲ期シ農業ノ總生産ニ影響ヲ及ボスガ如キ事ナキ様適當ノ對策ヲ講ゼラレ度シ
二、廢作地荒地ノ防止復舊ニ努力シ本計畫ト併行シテ既耕地保護ニ萬全ヲ期セラレ度シ
三、政府ハ至急水利施設ヲ完備シ以テ旱害ニ萬全ノ對策ヲ講ゼラレ度シ
四、政府ハ有機無機肥料ノ生産ニ關シ本案ノ實施計畫ト併行シテ、不足等ノ無キ様特ニ考慮セラレ度シ

○村上國吉君 只今議題トナリマシタ農地開發法案ニ付テ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御

〔村上國吉君登壇〕

報告申上げマス

本法案ニ關スル委員會ハ、去ル十七日カラ審議ヲ開始致シマシテ、二月二十一日マデ五日間ニ互リ、委員諸君ト政府ノ間ニ極メテ熱心ナル質問應答ガ行ハレ、最モ慎重ニ審議ヲ盡サレタノデアリマス、私ハ先ツ本法制定ノ前提ヲ成ス所ノ、食糧増産ノ政府ノ計畫ノ全貌ニ付テ御紹介申上ゲタイト存ジマス

即チ右政府ノ計畫ニ依レバ、米穀ニ於テハ昭和十六年乃至昭和二十七年ヲ第一期計畫トシテ、約千百万石、麥類ニ於テハ昭和十六年乃至昭和二十八年ヲ第一期計畫トシテ、約千二百万石ノ増産トナルノデアリマスガ、其ノ増産ノ根本基礎ヲ、農地ノ擴張ト耕地ノ改良ニ置イテ居ルノデアリマシテ、農地ノ造成事業ニ於テハ、開田二十万町歩、開畑三十万町歩、合計五十万町歩ヲ開墾スルコトトナシ、昭和十六年乃至昭和二十年ノ五箇年間に着手シテ、昭和二十四年ニ完成セシムル計畫デアリマス、又農地ノ改良事業ニ於テハ、農業水利改良、暗渠排水、床締客土、地下水源開發等ノ事業ヲ實施スルコトトナシ、其ノ計畫面積ハ約百五十万町歩デアリマシテ、昭和十六年乃至昭和二十年ノ五箇年間に着手シテ、昭和二十七年マデニ完成セシメル豫定ノ如クデアリマス、又以上ノ農地ノ擴張及ビ改良計畫ヲ實施スル爲ニ、ソレノ助成施設ヲ講スルト共ニ、一地區五十町歩以上ノ集團地ニ於ケル大規

模ノ農地造成、其ノ面積二十五万町歩、及ビ一地區ノ受益地面積三千町歩以上ニ及ブ大規模ノ改良事業、其ノ面積十五万町歩ハ特殊ノ法人タル農地開發營團ニ依ツテ計畫的ニ之ヲ遂行セシムルコトト致シテ居ルノデアリマス、而シテ本法案ノ内容ノ主ナル點ヲ簡單ニ申上ゲマスレバ、第一、本法ハ食糧自給ノ強化ヲ圖ルコトヲ目的ト致シマシテ、政府ハ農地ノ造成又ハ改良ヲ行フ者ニ對シ、毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付スルコトト致シ、開墾助成法ハ昭和十七年三月三十一日限り之ヲ廢止致シマスガ、其ノ規定ハ本法中ニ吸收サレルノデアリマス

第二ハ、大規模ナル農地ノ造成又ハ改良ヲ迅速且ツ圓滑ニ遂行スル爲ニ、農地開發營團ナル特殊ノ法人ヲ設立致スコトトシ、此ノ營團ヲシテ、政府ニ代ツテ食糧ノ増産ニ必要ナル農地ノ開發及ビ改良ヲ計畫的ニ行ハシムルコトト致シテ居ルノデアリマス、隨テ今マデアツタ所ノ所謂國營開墾ノ類ハ、現ニ計畫實施中ニアルモノノ外ハ、今後政府ニ於テ致サナイコトニナルノデアリマス

第三ハ、開發營團ノ資本金ハ三千万圓、内千五百万圓ハ政府出資、千五百万圓ハ民間ヨリ出資ヲ求ムルコトニ致シ、其ノ出資ニ對スル利益配當ハ、勅令ヲ以テ定ムル率ヲ超ユルコトヲ得ナイコトト致シマシテ、政府ニ對スル出資ニ對シマシテハ、配當ヲ減額シ、又ハ之ヲナサザルコトヲ得ルコトトシテ居ルノデアリマス

第四ハ、開發營團ハ拂込資本金額ノ五倍ヲ限り、農地開發債券ヲ發行スルコトガ出來マス、而シテ此ノ農地開發債券ハ、租稅ノ關係ニ於キマシテハ、地方債竝ニ取扱ヲ受ケルコトトナシ、又其ノ元利ノ支拂ニ付キマシテハ、政府之ヲ保證スルコトト致シテ居ルノデアリマス

第五ニ、開發營團ノ行フ事業ノ本質ニ鑑ミテ、政府補助金ノ交付、土地收用權ノ附與、稅法上ノ特典ノ供與、其ノ他適當ナル助成方策ニ依ツテ、其ノ經營ヲ容易ナラシムルト共ニ、一方政府ノ強力ナル監督ノ下ニ經營セシメ、以テ農地開發ノ目的ヲ達成スルニ遺憾ナカラシムルコトト致シテ居ルノデアリマス

第六ハ、開發營團ニ依ツテ開墾造成セラレタル農地ハ、自作農ヲラントスル者、及ビ農地調整法第四條ニ定ムル自作農創設維持ノ事業ヲ行フ者ノ申出ニ對シ、自作農地トシテ之ヲ開放シ、一定ノ價格ヲ以テ賣渡スコトヲ要スルモノト致シテ居ルノデアリマス

第七ハ、開發營團ガ主務大臣ノ認可ヲ受ケ、他人ノ所有ニ係ル農地ニ、農業水利施設ノ新設、廢止又ハ變更等ノ改良ヲ加ヘタル場合、營團ハ其ノ利益ヲ受ケタル者ヨリ、其ノ受ケル利益ノ限度ニ於テ、其ノ事業ノ施行ニ要シタル費用ノ一部ノ納付ヲ受ケルモノト致シ、又主務大臣ハ其ノ利益ヲ

受ケタル者ニ對シ、開發營團ニ之ヲ支拂フベキコトヲ命ズルコトガ出來ルコトニ致シテ居ルノデアリマス

第八ハ、開發營團ニハ理事長、副理事長各一名、理事五名以上、監事三名以上ヲ置キマスガ、是等ノ役員ハ總テ主務大臣之ヲ任命シ、又理事長、副理事長及ビ業務ヲ分掌スル理事ハ、主務大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ノ外ハ、他ノ職業ニ従事スルコトヲ得ザルモノト定メテ居ルノデアリマス、以上ガ此ノ法案ノ内容ノ主要ナル點デアリマス

次ニ質疑應答ノ主ナルモノニ付テ申上ゲマス、第一ハ、曩ニ閣議ニ於テ決定サレタ人口政策要綱ニ依レバ、内地人口ハ今後二十箇年間に一億ニ達セシムルコトニナツテ居ルガ、政府ノ主要食糧自給強化策トシテノ増産計畫ニ於テ、此ノ點ヲ考慮シテアルヤトノ質問ニ對シ、政府ハ外地及ビ滿洲等ニ於テ、ソレノ極力増産スル計畫ヲ樹立シテ、人口増加ニ伴フ需要ノ増加ニ對處スルコトヲ要スルハ勿論デアアルガ、此ノ第一期計畫ノ完遂ニ依リマシテ、少クトモコソ十箇年間に於ケル人口ノ増加ニ對處シ得ル見込デアルトノ答辯ガアリマシタ

第二、一方ニ於テ農地ノ造成及ビ改良ヲ行ヒナガラ、他ノ一方ニ於テハ年々荒廢ニ歸スル田畑ハ相當面積ニ上ルノ實情ニアアルガ、政府ニ於テハ之ニ對シ如何ナル方策ヲ執ルカトノ質問ニ對シマシテ、政府ニ於テハ是等ノ潰地ニ付テハ、其ノ補充ヲナス爲

ニ、或ル程度ノ豫算ヲ計上シテ居リ、又曩ニ制定サレマシタ臨時農地等管理令ニ於テ、無統制ナル農地ノ潰廢ヲ防止スルト共ニ、徒ラニ不耕作ノ儘放置セララル農地等ニ付テハ、之ヲ耕作ニ利用セシムルノ措置ヲ講ジ得ルノ途ガ開カレタノデアアルカラ、今後同令ノ運用ニ依ツテ善處スル旨ノ答辯ガアリマシタ

第三ニ開發營團ガ政府ノ認可ヲ受ケテ、其ノ計畫ヲ實施スルニ當リ、凡ソ何程ノ勞力ヲ要スル見込デアアルカ、又今日ノ如ク農村一般ニ勞力ノ不足セル現狀ニ於テ、政府ハ他ノ農業ニ影響ヲ及ボスコトナクシテ、其ノ事業ノ施行、地方ニ於テ、確實ニ其ノ所要勞力ヲ吸收シ得ル對策ガアルカ、更ニ營團ガ其ノ所要勞力ノ吸收ニ困難シテ、本事業ノ遂行ニ支障ヲ生ズルガ如キコトナシトノ確信アリヤトノ質問ニ對シマシテ、農地開發ニ關スル昭和十六年度ノ計畫ヲ實行スルニ當リマシテハ、從來ニ比シ延人員二千二百萬人餘ヲ要シマスガ、此ノ勞働力ノ確保ニ付キマシテハ、事業ノ施行ヲ主トシテ農閑期ニ致シマス關係上、農村ノ餘剩勞力ヨリ相當部分ヲ確保スルト共ニ、畜力、機械力ノ利用、移動勞働班ノ活用、學生、青年團、其ノ他ニ依ル勤勞奉仕等ニ依ツテ、遺憾ナキヲ期スル旨ノ答辯ガアリマシタ

第四ハ、此ノ計畫ニ依ル農地改良事業ノ遂行ニ依リ、今後早害ヲ絶滅セシムルコトヲ得ル確信アリヤトノ質問ニ對シマシテ、本計

畫ノ實施後ニ於テハ、從來特ニ被害ノ著シカリシ地域ニ於ケル早害ノ防止ニ付テハ、相當ノ效果ヲ擧ゲ得ルモノト考フルモ、尙ホ本計畫完了後ニ於テモ、引續キ其ノ他ノ地域ニ付テモ改良事業ヲ實施シ、早害等ヲ根絶スルコトニ努力シタキ旨ノ答辯ガアリマシタ

第五ハ、農地開發營團ノ法律上ノ性質、並ニ農地開發營團ナル特殊法人ヲ設立シテ、農地ノ開發事業ヲ行ハシメントスル根本理由如何トノ質問ニ對シマシテ、本營團ヲシテ行ハシメントスル農地開發事業ハ、國家ガ計畫的ニ又積極的ニ自ラ之ヲ行フコトヲ要スル性質ノモノデアアルガ、國家ノ代行機關トシテ特殊ノ機關ヲ設ケテ、事業ノ圓滑ナル運営ヲ期スルト共ニ、迅速ニ施行セシムルコトガ寧ろ適當デアルト認め、本營團ヲ設立セントスルモノデアリ、隨テ本營團ハ國家ノ行フべき事業ノ代行機關タル意味ニ於テ、強キ公益性ヲ有スルモノゾ、商法ノ規定ニ依ル株式會社ニモアラズ、又民法上ノ財團法人若シクハ社團法人ニモアラザル特殊法人デ、法律上ノ性質ハ公益的私法人トモ稱スベキモノナル旨答辯ガアリマシタ

第六開發營團ノ投資者ノ點ニ付キマシテハ、計畫ト致シテハ、日本勸業銀行及ビ產業組合中央金庫ヲ豫定致シテ居ルモ、是レ以外ノ出資ヲ拒ムモノデハナイトノ答辯デアリマシタ

第七、農地開發事業ヲ圓滑ニ行フ爲ニハ、

農林省ノミノ計畫デハナク、内務省、逓信省、鐵道省アタリトモ緊要ナル連絡ヲ取ル必要ガアルノデハナイカトノ質問ニ對シテ、當局ニ於テハ關係各省ト十分連絡シテ、本事業ノ圓滑ナル遂行ヲ期スル考デアアルト答辯ガアリ、内務省政府委員ヨリモ同様ナル答辯ヲ致サレマシタ

第八、開發會社ガ自作者ニ賣渡ス農地ノ價格ハ、反當リ凡ソ何程ノ見込ナリヤ、又營團ガ高價ニ賣却シテ多クノ利益ヲ收メントスル虞ナキヤ、其ノ監督ニ關シテ如何ナル措置ヲ執ルヤトノ質問ニ對シマシテ、價格ハ具體的ニハ場所ニ依リ異ナル問題デアラカラ一般のニハ言ヘヌガ、大體平均シテ田一反歩三百七十圓程度、畑一反歩百九十圓程度ニ考ヘテ居リ、此ノ價格ハ時價ヨリモ稍、安イ見込デアルト、隨テ又營團ガ開墾サレタ田畑ヲ高價ニ賣却シテ、利益ヲ得タイトスルヤウナコトハ考ヘサセナイ積リデアアルカラ、能ク監督シテ行クトノ答辯ガアリマシタ

他ノモノノ施設デアアルモノハ、四割又ハ五割ノ補助ト云フコトニ致シテ居リマスゾデ、委員會全體ノ意見トシテ、營團ト然ラザルモノトノ間ニ、斯様ニ補助率ニ隔リノアルコトハ適當デナク、計畫ノ圓滑ナル進行ニ阻碍ヲ生ズル虞モアルゾデ、之ヲ是正スベシトノ要求ニ關シ、政府ハ是デ宜シイト考ヘタノデアアルガ、委員會全體ガ左様ナ御意見デアリマスラバ、其ノ施行ニ當ツテ十分ニ研究考慮スルコトニスルトノ農林大臣ノ言明ガアツタノデアリマス

斯クテ委員會ハ本日其ノ審議ヲ終リマシテ直チニ討議ニ入りマシタ所、成島委員ヨリ次ノ希望條件ヲ附シテ本案ニ賛成スル旨ガ述べラレマシタ、即チ其ノ希望條項ハ

希望條項

右ノ外尙ホ幾多重要ナル質疑ガ熱心ニ致サレタノデアアルガ、今一々之ヲ御紹介申上グル暇ヲ持テマセヌゾ、是等ハ速記録ニ就テ御覽ヲ願フコトニシテ、此處ニハ之ヲ省略スルコトニ致シマス

最後ニ特ニ一言シテ置クベキコトハ、政府ノ計畫ニ依リマス、開發營團ノ施設スルモノニハ、政府ヨリ六割ノ補助ヲスルガ、其ノ

- 一、政府ハ本計畫實施ニ當リテハ更ニ周到ノ注意ヲ以テ勞力配置動員ニ萬全ヲ期シ農業ノ總生産ニ影響ヲ及ボスガ如キ事ナキ様適當ノ對策ヲ講ゼラレ度シ
- 二、廢作地荒作地ノ防止復舊ニ努力シ本計畫ト併行シテ既耕地保護ニ萬全ヲ期セラレ度シ
- 三、政府ハ至急水利施設ヲ完備シ以テ早害ニ萬全ノ對策ヲ講ゼラレ度シ
- 四、政府ハ有機無機肥料ノ生産ニ關シ本案ノ實施計畫ト併行シテ不足等ノ無キ様特ニ考慮セラレ度シ

ノ四項デアリマス、次イデ採決ニ入りマシタガ、全員一致ノ賛成ヲ以テ本案ハ可決サ

レ

創立總會ニ於テハ第十五條及第三十四條ノ規定ニ準ジ社長、副社長、理事及監事ノ選任ヲ行フベシ

第五十一條乃至第五十六條、第五十九條ノ規定ハ地方木材株式會社ノ設立ニ關シ之ヲ準用ス

(馬岡次郎君登壇)

○馬岡次郎君 只今議題トナツテ居リマシル木材統制法案ノ委員會ニ於ケル審議ノ經過竝ニ結果ニ付キ、河野委員長事故ノ爲メ私ヨリ御報告申上げマス

本法案ノ内容ハ、現下ニ於ケル生産及供給ノ狀況ニ鑑ミマシテ、木材ノ生産ヲ確保シ、其ノ供給ノ圓滑及ビ價格ノ公正ヲ圖ル爲メ、必要ナル各種ノ規定ヲ設ケマスルト共ニ、日本木材株式會社及ビ地方木材株式會社ヲ設立シマシテ、之ヲシテ時局下緊要ノ特殊用途ニ充ツベキ木材ノ生産竝ニ其ノ供給ノ圓滑及ビ價格ノ公正ヲ圖ル爲メ、必要ナル事業ヲ營マシメントスルノデアリマス

委員會ハ去ル二月十七日ヨリ本日ニ至ルマデニ於キマシテ、前後五回ニ互リ慎重審議致シマシタ、殊ニ時局下ニ於キマスル本問題ノ重要性ニ鑑ミマシテ、松尾、松浦、馬岡、増永、大橋、内藤、長野、杉山其ノ他ノ各委員カラ、極メテ熱心ナル質疑應答竝ニ有益ナル意見ノ開陳ガ行ハレタノデアリマス、其ノ間數次ノ懇談會ヲモ開催致シマシテ、本案ノ檢討ヲ特ニ敏速且ツ精細ニ致シマスル上ニ萬全ヲ期シタノデアリマス

各委員ノ行ハレマシタ質疑ノ主ナルモノヲ要約致シマスルト、先ヅ第一ニ、本法案ニ依ル木材ノ新シイ統制機構ノ確立ニ關シマシテ、各種ノ組合等ヲ活用スルコトニ依リ、既存ノ業者ヲ以テ足リルノデハナイカト云フ質問ガゴザイマシタ、之ニ對シマシテハ、時局下木材ノ供給ニ益、困難ガ感ゼラレルニ對シマシテ、特殊用途ニ於キマスル需要ガ倍加シテ繼續スルノ現狀ニ於キマシテハ、其ノ供給調整ヲ圖ルコトハ、單ニ組合等ニ依ル機構ヲ以テシテハ、絕對ニ不可能デアルト云フ事情ガ明瞭ニセラレマシテ、新タニ森林所有者、木材業者、木材需要者等ガ一體トナツテ特殊會社ヲ組織シ、之ヲ中核ト致シマシテ、木材ノ生産、配給部門ニ一貫性ヲ堅持セシメルコトガ至當トセラレタノデアリマス

第二ニ、本法案第二條ニ依ル立木ノ強制賣渡命令ニ關シマシテハ、其ノ立木ハ如何ナル範圍ナルヤ、其ノ命令ヲ發動スル行政官廳ハ如何ナルモノナリヤト云フコト、又其ノ命令ガ發セラレルニ至ルマデノ手續ハ如何ニスルカ、森林法ニ依ル施業案トノ關係ハ如何、立木ノ價格ハ如何ニシテ算定スルカ、又其ノ價格ヲ指定スル手續ハ如何ニスルヤト云フコト、更ニ命令ヲ受ケタル立木所有者ノ救済規定ヲ設クベキデハナイカト云フコト等ノ重要ナル質疑ガゴザイマシタ

之ニ對シマシテハ政府ヨリ右立木ノ賣渡命令ノ發動ニ當ツテハ、所有權ヲ尊重シ、愛林ノ念ニ苟モ不安ヲ生ゼシメザルヤウ極メテ慎重ヲ期スルト共ニ、國土保安ノ見地ヨリシテモ亦萬遺憾ナキヤウ留意シテ行フ旨ノ言明ガアリ、ソレレハ質疑ニ應フル答辯ガゴザイマシタ、即チ

一、伐期ニ達シタル立木ニシテ搬出施設アルモノノ所有者森林法ニ定ムル施業案又ハ之ニ準ジ地方長官ノ定ムル立木伐採計畫ノ定ムル所ニ依リ其ノ立木ノ伐採ヲナササル場合ニ於テ軍需其ノ他主務大臣ノ指定スル需要ニ充ツル爲メ特ニ必要アリト認ムル時ハ地方長官ハ當該立木ノ所有者ト地方木材株式會社ト協議セシメ協議調ハザル時ハ期間ヲ定メ、之ヲ伐採スルコトヲ勸奨スルコトヲ得ルコト

前項ノ地方長官ノ定ムル立木伐採計畫ハ森林法ニ定ムル施業案ノ存セザル森林ニ付キ地方用材統制委員會ノ議ヲ經テ之ヲ定ムルコト

二、立木ノ所有者一ノ勸奨ニ從ハザル時ハ主務大臣ハ地方長官ノ申請ニ基キ立木ノ所有者ニ對シ價格ヲ指定シ、其ノ立木ヲ立木ノ所在スル地區ノ地方株式會社ニ賣渡スベキコトヲ命ズルコトヲ得ルコト

三、二ノ價格ハ當該立木ヨリ生産セラレベキ素材ノ市場價格ヨリ伐採費、造材費、運賃其ノ他ノ經費ヲ控除シタル額ヲ基準トシテ之ヲ定ムルモノトスルコト

前項ノ外其ノ算定ニ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ムルコトトシ大體國有林ニ於ケル現行立木價格評定公式ヲ民有林等ノ實情ニ適合セシメツ標準トスルコト

四、立木ノ賣渡命令ヲナス場合其ノ他立木ノ賣渡命令ニ關シ重要ナル事項ハ中央用材統制委員會ノ議ヲ經テ之ヲ定ムルコト

五、二ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得ルコト

第三ニ特殊會社タル日本木材株式會社及ビ地方木材株式會社ニ付キマシテ、次ノ如キ質疑應答及ビ意見ノ開陳ガ行ハレタノデアリマス、先ヅ日本木材株式會社ニハ政府出資ヲナスベキデハナイカト云フ意見ニ對シマシテ、政府ヨリ現下ノ財政事情等ヨリ其ノ困難ナル旨ガ述べラレルト共ニ、其ノ配當保證ヲ行フコトニ依リ實效ヲ擧ゲタキ旨ガ答辯セラレマシタ

又日本木材株式會社ト地方木材株式會社トノ關係ニ付キマシテハ、兩會社ガ密接不可分ナル親子的關係ニアリ親會社ハ子會社ニ對スル投資、融資、生産資材ノ配給ヲ行ヒ、地方間ニ於ケル木材ノ供給及ビ價格ノ不適正ヲ是正シ、緊要需要ノ爲メ木材ヲ保有シ、輸移出入ニ係ル木材ノ賣買ヲ行フ等ニ事業ノ重點ヲ置キ、子會社ニ有力ナル便宜ヲ供與スルト共ニ、其ノ職能ニ於テ合理的ナル分業ヲ行ヒ、全國ヲ實情ニ即シテ十二、三ニ分チ

タル地方毎ニ木材ノ生産ヲ確保シ、需給ノ調整ヲ圖ルコトハ、直接子會社方之ニ當ルコトガ明瞭トセラレタノデアリマス

更ニ兩會社ト既存ノ木材業者及ビ製材業者トノ關係及ビ之ニ對スル對策ハ如何ニナルカトノ質問ニ對シマシテハ、關係業者ハ相當ノ範圍ニ於テ一面會社ノ出資者トナルト共ニ、是ト一體トナツテ吸收セラルルモノアル外、會社ノ下部ニアル協力機關トナルベキデアルガ、他面會社ノ取扱ハザル木材ニ關シテハ、既存ノ業者ノ活動ニ俟ツ所大ナルモノガアルノデアリマシテ、其ノ運營ニ付キマシテハ、組合組織等ノ整備ヲ圖リ、經營ノ合理化ニ努ムルヤウ十分ノ指導ヲ行フ旨ノ答辯ガアリマシタ、殊ニ消費地ニ於ケル木材業者及ビ製材業者ノ統制ニ關シテハ、地方木材株式會社ニ準ズル株式會社、又ハ組合等ニ依リ木材ノ荷受配給統制機構ヲ整備センメ旨ノ答辯ガアリマシタ

第四ニ本法案ニ關聯シテ、林政統一ノ必要性ガ強調セラレタノデアリマスガ、之ニ對シマシテハ、本法案ノ實施ニ依リ、内地ニ於ケル木材統制ニ關シ統一アル施策ガ實施セラレルコトトナル旨、及ビ全般ノナル林政ニ關スル行政機構ノ統一ニ付テハ、速カニ慎重檢討ノ上考研セラル旨ノ答辯ガ

農林大臣、企畫院總裁カラアリマシタ、尙ホ政府ニ於テハ木材資源ノ保護利用ノ爲メ、造林施設ヲ一層擴充シ、代用品使用ノ研究

及ビ實行ヲ行ヒ、國有林及ビ民有林ノ施業伐採上ニ於ケル負擔ノ均衡ヲ圖ル意思ナキヤ、滿洲ニ於ケル木材自給ノ指導ノ必要ナキヤ、又建築様式ノ統一ノ必要アリト思フガ如何トノ質疑ニ對シマシテハ、ソレト政府ヨリ適切ナル答辯ガアリマシタ

斯クシテ本日ノ會議ニ於キマシテ質疑ガ打切ラレマシタ、直チニ討論ニ入り、増永委員ヨリ修正案ノ提出ガアリマシタ、其ノ修正案ヲ朗讀致シマス

第十五條ノ末項ニ左ノ一項ヲ加フ
木材事業ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五年間日本木材株式會社ノ役員ト爲ルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認めタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十四條第五項中「第十三條乃至第十六條」下アルヲ「第十三條、第十四條、第十五條第二項乃至第四項、第十六條」ニ改メ第三十四條第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

地方木材株式會社ノ社長及副社長ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クルモノトシ其任期ヲ四年トス

第三十五條中「前條第五項」トアルヲ「前條第六項」ニ改ム
第三十六條、第四十三條及第四十四條中「第三十四條第五項」トアルヲ「第三十四條第六項」ニ改ム

第六十二條第三項中「第五十一條乃至第五十六條」下アルヲ「第五十一條乃至第五十四條、第五十六條」ニ改メ第六十二條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

創立總會ニ於テハ第十五條及第三十四條ノ規定ニ準ジ社長、副社長、理事及監事ノ選任ヲ行フベシ

之ニ對シ馬岡、内藤正剛君ヨリ贊成ノ意見ヲ述べ、政府ヨリ貴族院ニ於テモ同様ノ贊成ガアリマスレバ、同意ノ旨ガ述べラレマシテ、茲ニ政府ト委員會ノ意見ガ全ク一致ヲ見マシテ、修正案及ビ爾餘ノ原案ハ滿場一致ヲ以テ可決シタノデアリマス、以上御報告申上ゲマス

○副議長(田子「民君」) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(田子「民君」) 御異議ナイト認めマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子「民君」) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(田子「民君」) 御異議ナイト認めマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

木材統制法案 第二讀會(確定議)
○副議長(田子「民君」) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り確定致シマシタ(拍手)

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際、政府提出、民法中改正法律案、非訟事件手續法中改正法律案、戸籍法中改正法律案、民事訴訟法中改正法律案、陪審法中改正法律案、大正二年法律第九號中改正法律案、及ビ手代木隆吉君外九名提出、大正十二年法律第五十二號中改正法律案、右七案ヲ一括議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子「民君」) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(田子「民君」) 御異議ナイト認めマス、仍テ政府ハ此ノ議事日程變更ニ同意セラレマシタ、仍テ日程ハ變更セラレマシタ

○副議長(田子「民君」) 非訟事件手續法中改正法律案、戸籍法中改正法律案、民事訴訟法中改正法律案、陪審法中改正法律案、大正二年法律第九號中改正法律案、大正十二年法律第五十二號中改正法律案、右七案ヲ一括シテ第一讀會ノ續キヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス

委員長飯村五郎君

委員長飯村五郎君

委員長飯村五郎君

委員長飯村五郎君

民法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告) 非訟事件手續法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告) 戸籍法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

民事訴訟法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告) 陪審法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

大正十二年法律第九號中改正法律案(裁判所管轄區域ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告) 大正十二年法律第五十二號中改正法律案(司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル件)(手代木隆吉君外九名提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 民法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十二日 委員長 飯村 五郎

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一 非訟事件手續法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

提出、貴族院送付) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也 昭和十六年二月二十二日 委員長 飯村 五郎

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一 戸籍法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十二日 委員長 飯村 五郎

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一 民事訴訟法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十二日 委員長 飯村 五郎

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一 陪審法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十二日 委員長 飯村 五郎

昭和十六年二月二十二日 委員長 飯村 五郎 衆議院議長小山松壽殿

報告書

一 大正十二年法律第九號中改正法律案(裁判所管轄區域ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十二日 委員長 飯村 五郎

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一 大正十二年法律第五十二號中改正法律案(司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル件)(手代木隆吉君外九名提出) 右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十二日 理事 仲井間 宗一

衆議院議長小山松壽殿

(別紙)

(小文字及一委員長修正)

大正十二年法律第五十二號中左ノ通改正

第一項中「昭和十六年十二月三十一日迄」

ヲ「昭和十九年十二月三十一日迄」ニ改メ、

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (飯村五郎君登壇)

○飯村五郎君 只今議題ト相成リマシタル民法中改正法律案外六件ニ對スル委員會ニ於ケル審議ノ模様ノ大要ヲ極メテ簡潔ニ御報告申上ゲマス

先ヅ第一ニ大正十二年法律第五十二號中改正法律案ニ付テノ御報告ヲ致シマス、本案ハ今議會中議員提出ニ係ル唯一ノ法律案デアリマス、其ノ内容ト致シマスル所ハ、即チ大正十二年法律第五十二號ハ「明治二十六年司法省令第九號辯護士試驗規則ニ依ル試驗ノ受験ヲ出願シタル者ニシテ昭和十六年十二月三十一日迄ニ勅令ヲ以テ定ムル試驗ニ合格シタル者ハ辯護士法第三條ノ規定ニ拘ラス辯護士試補タルコトヲ得」下規定シテアリマスモノヲ、今後五箇年間、即チ昭和二十一年十二月三十一日マデ、是ガ延長改正ヲ致サントスルノガ其ノ内容デアリマス、其ノ理由ト致シマスル所ハ、先般本議場ニ於キマシテ、提案者ヨリ詳細ナル説明ヲ承リマシタノデ、之ヲ省略致シマス、本案ニ對シマシテハ、會議ヲ開クコト四回、提案者、委員並ニ政府當局ノ三者間ニ於キマシテ、極メテ熱心ナル質疑應答ヲ交換致サレタノデアリマス、其ノ結果庄司一郎君ヨリ、本案ノ延長五箇年ハ長キニ失ストノ理由ノ下ニ、宜シク三箇年、即チ昭和十

九年十二月三十一日マデト、斯様ニ修正スルガ穩當デアルトノ修正案ノ提出ヲ見タノデアリマス、採決ノ結果、滿場一致ヲ以テ右修正案ハ本院ニ於テ可決スベキモノト、委員會ハ議決致シタノデアリマス

其ノ他ノ六件ニ付キマシテハ、討論ヲ省略シ、採決ノ結果、滿場一致ヲ以テ是亦本院ニ於テ可決スベキモノト議決致シタノデアリマス、尙ホ詳細ノ點ニ付キマシテハ、一切之ヲ速記録ニ譲リマシテ、以上ヲ以テ本案ニ對スル御報告ト致シマス(拍手)

○副議長(田子一民君) 七案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ
○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ七案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ七案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子一民君) 服部君ノ勸議ニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ七案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

民法中改正法律案 第二讀會(確定議)

非訟事件手續法中改正法律案 第二讀會(確定議)

戶籍法中改正法律案 第二讀會(確定議)
民事訴訟法中改正法律案 第二讀會(確定議)

陪審法中改正法律案 第二讀會(確定議)
大正二年法律第九號中改正法律案(裁判所管轄區域ニ關スル件) 第二讀會(確定議)

大正十二年法律第五十二號中改正法律案(司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル件) 第二讀會(確定議)

○副議長(田子一民君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、七案トモ委員長報告ノ通り確定致シマシタ(拍手)

○服部崎市君 此ノ際暫時休憩セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(田子一民君) 服部君ノ勸議ニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○副議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ暫時休憩致シマス
午後四時五十七分休憩

午後七時十二分開議

○議長(小山松壽君) 休憩前ニ引續キ會議ヲ開キマス

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急勸議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際、政府提出、第二號昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案、特第

二號、昭和十五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案、第三號、昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案、特第三號、昭和十五年度特別會計歳入歳出豫算追加案、第一號、昭和十六年度歳入歳出總豫算追加案、特第一號、昭和十六年度各特別會計歳入歳出豫算追加案、追第一號、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、臨時陸軍材料資金豫算追加案、右八案ヲ一括議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ勸議ニ御異議アリマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——第二號、昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案、特第二號、昭和十五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案、第三號、昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案、特第三號、昭和十五年度特別會計歳入歳出豫算追加案、第一號、昭和十六年度歳入歳出總豫算追加案、特第一號、昭和十六年度各特別會計歳入歳出豫算追加案、追第一號、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、臨時陸軍材料資金豫算追加案、右八案ヲ一括シテ議題ト致シマス——第三號、昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案、第一號、昭和十六年度歳入歳出總豫算追加案ニ對シテハ各、川崎克君外二名ヨリ成規ニ依リ修正

案ガ提出サレテ居リマス、委員長ノ報告ニ次イデ其ノ趣旨辯明ヲ許シマス、先ツ豫算委員長ノ報告ヲ求メマス——豫算委員長増田義一君

(第一號)昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案
(特第一號)昭和十五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

(第二號)昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案
(特第二號)昭和十五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

(第三號)昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案
(特第三號)昭和十五年度特別會計歳入歳出豫算追加案

(第一號)昭和十六年度歳入歳出總豫算追加案
(特第一號)昭和十六年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件
(臨時第一號)臨時陸軍材料資金豫算追加案

報告書
一(第一號)昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十二日
豫算委員長 増田 義一
衆議院議長 小山松壽殿

報告書

一(特第二號)昭和十五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十二日

豫算委員長 増田 義一

衆議院議長 小山松壽殿

報告書

一(第三號)昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十二日

豫算委員長 増田 義一

衆議院議長 小山松壽殿

報告書

一(特第三號)昭和十五年度特別會計歳入歳出豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十二日

豫算委員長 増田 義一

衆議院議長 小山松壽殿

報告書

一(第一號)昭和十六年度歳入歳出總豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

候此段及報告候也

昭和十六年二月二十二日

豫算委員長 増田 義一

衆議院議長 小山松壽殿

報告書

一(特第一號)昭和十六年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十二日

豫算委員長 増田 義一

衆議院議長 小山松壽殿

報告書

一(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十二日

豫算委員長 増田 義一

衆議院議長 小山松壽殿

報告書

一(臨時第一號)臨時陸軍材料資金豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十六年二月二十二日

豫算委員長 増田 義一

衆議院議長 小山松壽殿

(増田義一君登壇)

○増田義一君 只今議題トナリマシタ昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案第二號外七件ニ付キマシテ、其ノ委員會ニ於ケル審議ノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス

先ヅ昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案第二號ニ計上致シテ居リマスル金額ハ歳入千八百七十餘万圓、歳出五千七百四十餘万圓、差引歳出超過額三千八百六十餘万圓トナツテ居リマス、歳出追加額ノ主ナル事項ヲ申上ゲマスレバ、重要肥料供給確保施設ニ要スル經費、鐵鋼原料ノ補償ニ要スル經費、臨時米穀管理施設ニ要スル經費等デアリマス

次ニ昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案第三號ニ計上致サレマシタ金額ハ、歳入七十餘万圓、歳出八百九十餘万圓、差引歳出超過額八百十餘万圓トナツテ居リマスガ、右二案ノ歳出超過額ハ、昭和十五年度豫算ノ實行上ニ於ケル歳出ノ節約ニ因リテ生ズル所ノ歳入超過額ノ中ヨリ充當サルル趣キデアリマス

本追加案ノ歳出ニ計上サレテ居リマスル經費ノ主ナルモノハ、北支那開發會社及ビ中支那振興會社ニ對スル補助金、大政翼贊會ニ對スル補助金等デアリマス
次ニ昭和十六年度歳入歳出總豫算追加案第一號ハ、歳入歳出共ニ十一億三千八百八十餘万圓デアリマス、歳入追加額ハ其ノ金額

ガ臨時部デアリマシテ、内普通歳入ニ屬スル七百十餘万圓ヲ控除致シマシタル殘額十一億二千四百六十餘万圓ノ財源ハ、之ヲ公債ニ依ルコトニナツテ居リマス

最後ニ臨時陸軍材料資金豫算追加案臨時第一號ハ、事變地ニ於ケル軍需品ノ材料及ビ原料購入ニ要スル經費ノ増加ヲ計上致シテ居リ、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、追第一號ハ、過日本會議ノ協賛ヲ經マシタ臨時軍事費豫算追加案臨時第二號ニ關聯スル軍ノ需要充足ノ爲ノ豫算外契約ノ外、外國爲替損失補償金、輸出補償金、其ノ他ニ關スルモノ等デアリマス、是等豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ノ金額ハ約三十八億五千万圓デアリマシテ、又本豫算ノ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ノ金額ハ約十六億八千万圓デアリマスカラ、右ヲ合計致シマスと、約五十五億四千万圓ノ多額ニ上ルコトヲ特ニ申添ヘテ置キマス

此ノ際振返ツテ今期議會ニ提出サレマシタ豫算各案ヲ綜合致シマシテ、昭和十六年度豫算ノ全貌竝ニ其ノ前年度豫算ニ對スル比較對照ヲ茲ニ御紹介致シタイト存ジマス、昭和十六年度歳入歳出總豫算追加案第一號ノ金額ヲ總豫算ノ額ニ加ヘマスルト、一般會計豫算ノ總額ハ歳入歳出トモ各、七十九億九千五百餘万圓トナリ、之ヲ前年度豫算額ニ比較致シマスレバ、歳入ニ於テ十八億七千八百餘万圓ノ増加トナリ、歳出ニ於テ

ハ十八億二千餘万圓ノ増加トナツテ居リマス、今右ノ一般會計豫算ト曩ニ本議會ニ於テ可決サレマシタ臨時軍事費豫算追加案臨第二號トフ合計致シマスルト、百二十八億七千五百餘万圓トナリ、是ヨリ兩會計間ノ通拔ケ勘定トナツテ居リマス、一般會計ヨリ臨時軍事費特別會計ヘノ繰入額六億七千万圓ヲ控除致シマス、昭和十六年度ニ於ケル一般會計ト、臨時軍事費トノ純合計額ハ百二十二億五百餘万圓トナルノデアリマス、昭和十五年度一般會計歳出豫算及ビ前議會ノ協賛ニ係ル臨時軍事費豫算並ニ本議會ノ協賛ヲ經マシタ臨時軍事費豫算追加案臨時第一號ノ合計額百十六億三千三百餘万圓ノ中ニモ亦、一般會計ヨリ臨時軍事費特別會計ヘノ繰入額ガ六億圓アリマスノデ、之ヲ控除致シマスルト、其ノ純合計額ハ百十億三千三百餘万圓トナリマスカラ、昭和十六年度ニ於ケル一般會計及ビ臨時軍事費ノ純合計額ト、昭和十五年度ニ於ケル一般會計及ビ臨時軍事費ノ純合計額トヲ比較致シマスルト、十一億七千餘万圓ノ増加トナル譯デアリマス、尙ホ昭和十六年度ニ於ケル公債ノ發行豫定額ハ、其ノ總計七十五億七千四百餘万圓トナリ、昭和十五年度ノ發行豫定額ニ比シ五億五千餘万圓ノ増加トナツテ居ルノデアリマス

十日以來本日マデ十回豫算委員會ヲ開會致シ、各委員ヨリ眞摯ナル質疑ガ行ハレマシタ、質疑應答ノ詳細ヲ茲ニ申上ゲルコトハ出来マセヌガ、其ノ項目ノミヲ御報告致シマスレバ、第一、財政ニ關シテハ豫算實行ノ見込確實ナリヤ、物動計畫トノ關係如何、將來ノ財政計畫ニ付キ確乎タル見透シ有スルヤ、重要物資増産ノ爲ノ助成金政策、補助金及ビ補償金ニ關スル問題、公債消化ニ障碍ナキヤ、並ニ財政問題ニ關聯シテ下級官吏ノ待遇改善ノ問題、減俸復活等ニ關シテモ質疑應答ガ行ハレマシタ、第二ニ經濟問題ニ關シテハ、經濟新體制要綱ノ實行方針並ニ其ノ時期、所謂計畫經濟ノ本質、中小商工業者ノ維持育成ト、其ノ轉失業對策問題、低物價政策ト生産力擴充トノ關係、闇取引ト之ニ對スル司法當局ノ態度、勞務動員計畫ノ方針、勞働者ノ適正賃金ノ問題、國營事業ノ民營化、保險國營ノ問題等重要な事項ニ付キ質疑應答ガ行ハレマシタ、第三ニ金融問題ニ關シテハ、十六年度ノ資金計畫如何、金融機關ノ整備、金融行政ノ統一等方論セラレマシタ、第四ニ外交問題ニ付キマシテハ、松岡外務大臣ヨリ大膽率直ナル意見ノ開陳ガアリマシタガ、其ノ主ナルモノハ、日「ソ」國交調整ニ關スル問題デアリマス、即チ「事實日「ソ」國交調節ガ如何ナル點マデ進ンデ居ルカ」トノ質疑ニ

對シ、從來殆ド問題トナラナカツタ通商條約ニ於テモ、混合委員會ヲ開カウト云フ所マデ來テ居ル、即チ「ソ」聯政府ハ日本ガ或所マデ互讓精神デ行ツテ呉レルナラバ、國交調整ヲヤリタイト云フ氣持ハ變ツテ居ナイ、コチラノ氣心モアチラデ分ツテ呉レル所マデ來タトノ答辯ガアリ、茲ニ日「ソ」關係ノ前途ニ光明ヲ見出シ得タトノ次第デアリマス

唯此ノ際食糧増産確保ニ關スル問題、科學振興ニ關スル問題及ビ大政翼贊會ニ關スル問題ニ付テハ質疑應答ノ内容ノ一端ヲ申上ゲタイト存ジマス

先ヅ本月七日衆議院一致ノ決議ヲ以テ要望シタル食糧増産確保ノ問題ニ付キ十六年度及ビ十五年度追加豫算ニ計上セラレタル經費ハ極メテ少額デアリマス、仍テ第一、食糧増産ノ爲ノ部落團體ノ總動員、第二ニ農業技術員ノ充實、篤農家ノ動員等ニ關スル政府ノ意見如何トノ質疑ニ對シテ石黒農林大臣ハ、此ノ二點ニ關シテハ政府ニ於テモ増産上極メテ有效ナル施設ト考ヘ、經費三千萬圓ヲ以テ案ヲ立テ、財務當局ニ協議スルコトトシ、出來ルダケ御趣旨ニ副フヤウ努力致シタイ旨ノ答辯ガアリ、河田大藏大臣ヨリモ、緊急且ツ重要ナル問題ナルガ故、成案ヲ得タ上ハ豫備金カラ支出スルコトモ亦已ムヲ得ナイト思フトノ答辯ガゴザイマシタ

次ニ科學振興ニ關スル問題ニ付キマシテハ、科學技術體制ノ確立ハ高度國防國家完成ノ礎石デアアルガ、豫算上又其ノ機構體制ノ上カラ見テ洵ニ不十分デアアル、此ノ際我が國ノ科學技術ノ體制ヲ再編成シテ、科學ノ劃期的振興ト技術ノ躍進ノ發達ヲ圖ルト共ニ、其ノ根本タル國民ノ科學精神ノ作興ヲ圖リ、東亞共榮圈內ノ資源ニ基ク科學技術ノ自主的確立ヲ期セネバナラス、仍テ第一、科學技術院ヲ創設シ、科學技術行政ノ參謀本部ヲラシメ、各省ノ科學技術行政事項及ビ研究機關ヲ統轄シテハ如何トノ質疑ニ對シ、政府ヨリ、東亞共榮圈內ノ資源ニ依ル自給方策ヲ確立シ、國防ノ根基ヲ絕對安固ナラシムル爲メ、科學技術體制ノ確立ニ關シテハ夙ニ深甚ナル關心ヲ有シ、具體的措置ニ付キ努力中デアアル旨ノ答辯ガアリマシタ

次ニ大政翼贊會ニ關シテ申上ゲマス、先月二十九日ノ豫算委員會ニ於キマシテ島田委員ヨリナサレタル議事進行ノ發言ニ關シテハ、二月八日内閣總理大臣ヨリ答辯ガアリマシタ、而シテ今朝委員會ノ劈頭重要ナル四、五ノ點ニ付キマシテ特ニ委員長トシテ政府ノ意向ヲ確メタノデアリマス、其ノコトヲ御報告致シマス、先ヅ最初ニ「本日總理大臣ハ御病氣御缺席デアリ、内務大臣ガ代ツテ答辯スルトノコトデアリマスガ、内務大臣ハ總理大臣ニ代ツテ全責任ヲ以テ答

辯ニ當ラルコトト存シマス、近衛首相ヨリ去ル八日大政翼賛會ニ關スル御答辯ハ既ニ承ツテ居ル所デアリマスルガ、此ノ際特ニ御尋ネ致シタイコトハ、第一ハ大政翼賛會ノ性格ニ關スル點デアリマス、大政翼賛會ハ治安警察法第三條ニ該當スル公事結社ト承ツテ相違アリマセヌカ之ニ對シ平沼國務大臣ハ次ノ如ク答ヘラレテ私ハ先刻委員長ノ述ベラレマシタル通り、内閣總理大臣ト十分協議ヲ遂ゲマシタ上、全責任ヲ以テ御答ヘラ致シマス、只今ノ委員長ノ御尋ネハ、大政翼賛會ハ治安警察法第三條ニ該當スル公事結社デアリカト云フ御尋ネデアリマス、其ノ通りデアリマス、大政翼賛會ハ治安警察法第三條ノ公事結社デアルト認メマス、委員長カラ更ニ問フ發シマシタ「只今ノ御答辯ニ依ツテ其ノ點ハ明カトナリマシタ、隨テ治安警察法第一條ノ政事結社ニ該當スルガ如キ政治活動ヲナスベキモノニアラズト確信致シマスガ、政府ノ御所見ハ如何デアリマスカ」、平沼國務大臣「治安警察法ノ第一條ノ政事結社、之ニ該當スルガ如キ政治活動ハ大政翼賛會ニ於テハナスベキモノニアラズト考ヘテ居リマス、ソコデ委員長ヨリ「然ラバ若シ治安警察法第一條ノ政事結社ニ該當スルガ如キ政治活動ヲナシタル場合ニ於テハ、政府ハ當然嚴重ニ之ヲ取締ラルルノ決意ヲ有セラルル筈ト信ズルガ、如何デアリマスカ」、平沼國務大臣

「委員長御述ベノ通り斯クノ如キ政治活動ヲ致シマシタ場合ニハ、嚴重ニ之ニ對シテ取締ヲ致ス積リデアリマス」、委員長カラ「第二ハ大政翼賛會ノ機構ノ問題デアリマス、先般來議會ニ於テ種々論議セラレタルガ如ク、中央、地方ヲ通ジ、現在ノ機構ハ、只今マデノ御答辯ノ趣旨ニ副ハザル點ノ多イノヲ甚ダ遺憾ニ存シマス、隨テ政府ハ速カニ根本的ニ是ガ改組ヲナスノ用意ト決意ヲ有セラルルコトト信ズルガ、如何デアリマスカ」、平沼國務大臣「政府ニ於キマシテハ、速カニ大政翼賛會ノ改組ヲナサシムベキ所存デゴザイマス」、委員長ヨリ「第三、既ニ性格ガ明白トナリ、且ツ機構ヲ大改革セララルル決意ノアル以上ハ、其ノ人事ニ付テモ此ノ際根本的ニ大刷新ヲ斷行セシムルノ要アリト認メマスガ、政府ハ之ニ對シテ如何ナル決意ヲ有セラルルヤ、承リタイノデアリマス」、平沼國務大臣「政府ハ人事ニ付キマシテモ之ヲ刷新スルニ付キマシテハ十分ノ考慮ヲ拂フ積リデ居リマス」、茲ニ一言致シマスガ、後ニ他ノ委員カラ「考慮トハ如何ナルコトカ」トノ質問ガアリ、之ニ對シ「考慮トハ能ク考ヘテ斷行スル意味デス」ト答ヘラレマシタ、委員長ヨリ「第四、然ラバ機構ノ改革、人事ノ刷新ニ伴ヒ、現ニ豫算ニ要求セラレタル金額中ニハ不用ニ歸スベキモノアリト考ヘラレマス、隨テ豫算ノ實施ニ付テハ補助金額ヲ適當ニ削減

スベキモノト認メラレマスガ、政府ノ所見ヲ承リタイ、平沼國務大臣「改組ノ結果不用ニ歸シマスルモノガゴザイマスレバ、是ハ不用額ト致シマシテ之ヲ使用セシメザル方針デアリマス、隨テ其ノ分ニ付テハ補助金ヲ交付セズ、又ハ一部返納ヲ命ズルノ必要ヲ認メマス場合ハ、其ノ處置ヲ講ズル心底デアリマス」、委員長ヨリ「尙ホ大政翼賛會ノ經費ヲ地方ニ負擔セシメ、或ハ寄附金ヲ募集セシムルガ如キハ頗ル弊害ガ多イト認メマスガ、政府ハ之ヲ禁止スル意向ヲ有セラルルカ、如何デアリマセウカ」、平沼國務大臣「大政翼賛會ハ其ノ性質ニ鑑ミマシテ、地方費ヲ以テ之ヲ支辨スベキ筋合ノモノデハゴザイマセヌ、國庫ノ助成ニ依ルベキヲ相當ト考ヘテ居リマス、尤モ例外ト致シマシテハ、時ニ地方團體ニ於テ大政翼賛會ノ支部ヲシテ、地方團體ノ固有事務ノ遂行ニ協力セシムルト云フヤウナ場合ガゴザイマス、斯クノ如キ場合ニハ、之ニ要スル費用ニ限ツテ、地方費ヲ以テ補助ヲナシマシテモ、是ハ差支ヘナイ、斯様ニ考ヘテ居リマス、尙ホ寄附金ニ關シマシテハ、眞ノ淨財デアリマスレバ之ヲ受入レマシテモ差支ヘナイト考ヘマス、隨テ政府ト致シマシテハ、翼賛會ニ於テ寄附ヲ受ケント致シマスル場合ニハ、政府ノ承認ヲ受ケシムルコトヲ必要トスル、斯様ニ定メル積リデアリマス」、ソコデ委員長ハ「以上ニ

依ツテ大體政府ノ意ノ在ル所ヲ承リマシタガ、只今マデノ御答辯ハ政府トシテノ言明タルハ勿論、近衛總理大臣ニ代ツテノ御答辯ト承リマス、而シテ近衛首相ハ内閣ノ首班タルト同時ニ、大政翼賛會ノ總裁デアリマス……

〔發言スル者アリ〕

○議長(小山松壽君) 田淵君ニ御注意致シマス

○増田義一君(續) 隨テ此ノ言責ヲ一日モ速カニ實現セラレ、就中其ノ機構ノ改革、人事ノ刷新ノ如キハ、全然白紙ニ還リ、國民ノ疑惑ヲ一掃シ、以テ眞ニ萬民翼賛ノ實ヲ舉グルニ足ルベキ體制ノ整備ニ努メラレシコトヲ要望致シマス、是ニテ委員長ノ質疑ハ終リマシタ

〔發言スル者アリ〕

○議長(小山松壽君) 田淵君ノ發言ヲ禁ジマス

○増田義一君(續) 本日午後質疑ヲ終了致シマシテ、討論ニ入りマシタ、田中好君ヨリハ贊成ノ旨ノ發言ガアリ、江藤源九郎君ヨリハ第三號、昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案ニ付テハ、大政翼賛會ニ對スル補助費六十五萬圓ヲ二十五萬圓ニ削減シ、第一號、昭和十六年度歳入歳出總豫算追加案ニ付テハ、大政翼賛會ニ對スル補助費八百萬圓ヲ三百萬圓ニ削減スルト云フ修正動議ガ提出セラレマシタガ、採決ノ結果此ノ修

正動議ハ少數ヲ以テ否決セラレ、次イデ此ノ兩案ノ原案ニ付テ採決ノ結果、多數ヲ以テ可決致シマシタ、次ニ殘餘ノ六案ニ付キ採決ノ結果、何レモ全會一致ヲ以テ原案ノ通り可決致シマシタ次第デゴザイマス、此ノ段御報告申上ゲマス

終リニ臨ンデ一言致シマス、此ノ空前ノ追加豫算ヲ實行セラルルニ當ツテ、當局者ハ最大ノ經費ヲ使フニ細心ノ注意ヲ以テセラレンコトヲ要望シテ已マザルモノデアリ

マス(拍手)
○議長(小山松壽君) 修正案ノ趣旨辯明ヲ許シマス——川崎克君

(第三號)昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案ニ對スル修正案(川崎克君外二名提出)
追加案ニ對スル修正案(川崎克君外二名提出)
(第一號)昭和十六年度歳入歳出總豫算追加案ニ對スル修正案(川崎克君外二名提出)

(第三號)昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案ニ對スル修正案

(小字及——ハ修正)

(第三號)昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案中左ノ通修正ス

豫算

昭和十五年度歳入歳出追加額ヲ歳入七拾五萬千圓歳出八百九拾貳萬千七百八拾五圓ト定ム其ノ款項ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

歳出臨時部

大藏省所管

第四十二款 補助費

第十二項 大政翼賛會補助

大藏省所管合計

歳出臨時部合計

歳出總計

六五〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
六五〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
七、六四〇,〇〇〇	七、二四〇,〇〇〇
八、七〇四,三七五	八、三〇四,三七五
八、九二一,七八五	八、五二一,七八五

(第一號)昭和十六年度歳入歳出總豫算追加案ニ對スル修正案

(小字及——ハ修正)

(第一號)昭和十六年度歳入歳出總豫算追加案中左ノ通修正ス

豫算

第一條 昭和十六年度歳入歳出追加額ヲ各拾壹億參千八百拾四萬九千四百貳拾參圓

ト定ム其ノ款項ハ別冊甲號歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

歳出臨時部

大藏省所管

第三款 補助費

第十五項 大政翼賛會補助

大藏省所管合計

歳出臨時部合計

歳出總計

八、七五六、八四九	三、七五六、八四九
八、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇
一五、八五九、六六六	一〇、八五九、六六六
八、一八、三三〇、八五三	八、三三〇,八五三
一、一三一、八四九、四二三	一、二六八、四九四、三三三

(川崎克君登壇)

○川崎克君 私共同志ニ依リマシテ提出ヲ致シマシタ修正案ノ趣旨辯明ヲ致シタイト存ジマス、修正案ハ第三號、昭和十五年度大政翼賛會ノ豫算中六十五萬圓トアリマスルノヲ、二十五萬圓ニ修正削減ヲ致シマシテ、次イデ第一號、昭和十六年度同豫算中八百萬圓トアルヲ、三百万圓ニ修正セントスルモノデアリマス、而シテ本豫算ノ大政翼賛會ニ對シマスル補助費ハ、大政翼賛會ノ收入、支出ノ豫算表ニ依リマシテモ、殆ド政府ヨリノ補助費ヲ基本ト致シテ居ルノデアリマシテ、此ノ運用ニ當リマシテハ、政府トシテハ重大ナ關係ヲ持つ内容ヲ有シテ居リマスル大政翼賛會ノ豫算ト致シマシテ、相當巨額ノモノデアリマスルカラ、私共ハ

之ヲ檢討ヲ致シマシテ、只今修正ノ如キ案ニ修正致シタイコトヲ主張スル者デアリマス(拍手)

先ツ第一ニ翼賛會ノ機構ノ問題デアリマス、此ノ機構ノ問題、性格ノ問題ニ付キマシテハ、大政翼賛會問題トシテ豫算委員會デ論議セラレマシタ中ノ中心問題トシテ取上ゲラレテ、其ノ問題ガ最後ノ本日ノ豫算委員會ニ於テ、只今増田委員長ノ御報告ニナリマシタ如ク、公事結社デアるか否カト云フコトヲ御尋ネニナツタニ對シテ、政府ハ公事結社デアルト仰セニナツテ居ルノデアリマスルケレドモ、一松委員ノ國策ノ樹立遂行ニ協力ヲスルト云フコトハ、是ハ明カナル政治行動デアツテ、公事結社ノナスベキモノデナイノデヤナイイカト云フ質問

ニ對シテハ、明確ナル御答辯ハナカッタノデアリマス(拍手)私ハ此ノ點ニ付テ甚ダ遺憾ヲ感ジタ、此ノ問題ハ屢々政府ノ聲明ガ變更ヲ重ネラレテ、最後ニ其ノ性格ハ公事結社ナリト仰セラレテ、政治行動ハ宜クナイト明確ニ答辯ヲナサレテ居リナガラ、前ニ謝ツテ大政翼賛會ノ使命ヲ説明スル文章ノ中ニ掲ゲラレタ國策ノ樹立遂行ニ付テハ、政治ニ協力ヲスルト云フ言葉ハ依然トシテ取消サレテナイト云フコト自體、私共甚ダ遺憾ヲ感ゼザルヲ得ナイ(拍手)今日アタリハ最早其ノ點ニ觸レテハ政府トシテハ御取消シニナルベキ筋合デアツタト私ハ思フテ居ツタ、此ノ一點ハ洵ニ私ノ遺憾ニ存ジテ居ル點デアリマス、一體申スマデモナク大政翼賛トハ、私ガ豫算委員會ニ於キマシテ指摘致シマシタ如ク、此ノ法律上ノ根據ハ皇室典範ニアリ、又憲法第五十五條ニ付テ憲法義解ノ著者ノ明確ニ書イテ居ル所デアリ、明治二十六年二月十日ニ臣僚及ビ議員ニ賜ハリタル御詔勅ニ於テ翼賛ノ機關ヲ御説明ニナツテ居リマスル中ニ、所謂政治ニ協賛ヲスルト云フコトハ、憲法ノ條章ニ於テ輔弼ノ責任アル所ノ内閣ノ大臣ト、立法府デアル所ノ帝國議會ニ依ルニアラザレバ斷ジテ行フベカラザルコトハ、炳トシテ明カナルモノナリト言ハナケレバナラス(拍手)若シ夫レ此ノ機關ニ紛淆ヲ生ズルガ如キコトガアルナラバ、其ノ責任ノ所在ヲ不明確ニ

シ、其ノ紛淆ノ結果カラ生ズル戰時體制ノ最モ恐ルベキ消耗力ノ増加トナツテ現ハレナケレバナラスノデアアル(拍手)戰時體制ノ強化ハ責任ノ所在ヲ明カニシ、機關ノ紛淆ヲ避ケ、職域奉公ノ誠ヲ致サシムルト云フ軌道ニ乘セナケレバ、斷ジテ其ノ目的ヲ達スルコトハ出來ナイノデアリマス(拍手)憲法發布ノ御勅語ノ中ニ、洵ニ畏多イコトデアリマスルガ勢頭ニ仰セラレテアリマス、「朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此不磨ノ大典ヲ宣布ス」ト仰セラレ、洵ニ恐懼ニ堪ヘナイモノガアルノデアリマスガ、私ハ我が國ノ青史ヲ繙キマシテ、明治初年ニ五箇條ノ御誓文ヲ御發布シテ、明初年以來明治二十三年マデ約二十三年ノ間、明治大帝ノ御生涯ノ殆ト半バハ憲法制定ノ爲ニ御軫念遊バサレタ此ノコトヲ思フ時ニ、明治大帝ノ御聖德ヲ追慕シ、又盡忠報國ノ誠ヲ致サナケレバナラスト云フ心ハ、何人ノ心ノ中ニモ湧キ返ラナケレバナラスコトデアルト思フノデアリマス(拍手)世ニ動モスレバ不敬ノ言ヲナス者ガアリマシテ、憲法ハ改正ハ出來ルト云フヤウナコトヲ言フ者ガアリマス、是ハ大變ナ考ヘ違ヒデアリマシテ、憲法ハ之ヲ改正ノ必要ヲ御感ジニナツタ場合ハ、「朕及朕カ繼續ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ」ト仰セラレマシテ吾等臣民ハ憲法ノ改正ノコトヲ口ニス

ベキデナイト思フテ居ルノニ、輕々シク斯様ナ言葉ガ發セラレルコトハ、我が國體ノ爲ニ私ハ甚ダ遺憾ヲ感ジテ居ルノデアリマス(拍手)此ノ不磨ノ大典ヲ宣布遊バサレタ陛下ノ御趣意ヲ體シマシテ、苟クモ立法府ニアル吾々ハ、此ノ條章ニ依ツテ過チナカラシコトヲ期スルコトガ、立法權ニ協賛スル者ノ大切ナル務メデアルト思フノデアリマス(拍手)斯様ナ見地カラ私共ハ憲法ニ對シマスル考ヘヲ持ツテ居ルノデアリマサルケレドモ、特ニ日本ノ憲法ハ皆様ニ申上グルマデモナク、欽定憲法トシテ全ク特殊ノモノデアリマシテ、即チ國體ノ上ニ政體ガ立テラレテ、サウシテ、天皇ノ絕對至上權ガ憲法條章ニ依ツテ凡ユル所ニ認メラレテ、多數政治ノ運用ヲナシマシテモ最後ノ御決裁ハ、上御一人ニ依ツテ御裁決ニナルヤウニ出來テ居ルノガ、日本ノ憲法ノ特色デアリマシテ、此ノ特色ハ吾々日本民族ノ洵ニ誇リトスル所デアリ、私共ノ之ヲ守ツテ行カナケレバナライコトハ、申スマデモナイコトト思フノデアリマス、隨テ私共憲法問題ヲ提ゲマシテ此ノ議會デ論議ヲ致シマスルコトハ、憲法ノ條章ノ枝葉末節ヲ捉ヘテ論ジテ居ルノデハナイノデアリマシテ、此ノ憲法ノ精神ノ中ニ流レテ居ル欽定憲法ノ其ノ尊イ國體觀念ノ其ノモノニ觸レテ行ク所ガアル爲ニ、憲法ニ違反スルコトハ、即チ國體ニ違反スルコトガ生ジテ參ル

ノデアリマス(拍手)私共ソレヲ考ヘテ特ニ憲法問題ヲ重要視シテ居ルノデアリマス、殊ニソレアルガ爲ニ大政翼賛會ノ機構ヲ見マシテ、其ノ機構ガ我が憲法ノ精神ト抵觸シナイモノデアアルカ否カト云フコトニ付キマシテハ、私共其ノ機構自體ノ上ニ疑ヒヲ持チ、遺憾ナ點ヲ持ツノデアリマス

大體ニ於テ其ノ機構ヲ細カニ見テ參リマスト「下イツ」ノ「ナチス」ノ機構ニ倣ツタ所モアリ(拍手)又共産「ロシヤ」ノ機構ニ倣ツタ所モアリ、其ノ混血兒的出現デアアルカノヤウナ感じガサレルノデアリマス、サウ云フ機構ノ上ニ立立テラレテ居ルカノ如キ感ヲ持ツコトハ、政府ノ外ニ政府ガアツテ、サウシテ其ノ政府ノ外ニアル政府ニ指令權ヲ持ツカノ如キ機構ニナツテ居リマスコトハ全體ノ條文ナリ、主張ナリヲ御覽ニナツタナラバ明カニ分ルノデアアル、或ハ之ニ對シテ、決シテサウデハナイノダ、強制力ヲ持タシテ居ルノデハナイト御説明ニハナツテ居リマスガ、先程指摘致シマシタヤウニ國策ノ樹立遂行ニ協力スルト云フコトハ、一種ノ政治的ノ力ヲ以テ政府ニ迫リ、立法府ニ迫ラントスル所ノ意味ガ其處ニ明カニ現ハレテ居ル(拍手)ソレガ即チ政治力デアリマシテ、吾々如何ニシテモ承服シ難イ點デアアルノデアリマス、機構既ニ然リ、其ノ内容ニ盛ラレタモノハ如何デアアルカト申セバ、大政翼賛會ノ中ニアル人ガ悉ク左様

トハ申サス、中ニハ立派ナ紳士モアリマセウ、穩健ナ主張ヲ持つテ居ル人モアリマセウ、アリマセウガ、此ノ程大政翼賛會ガ出現シマスルト云フト、大政翼賛會ニ對シテ批評ヲ加ヘテナライ、批評ヲ加ヘレバ嚴罰ニ付スルト云フヤウナコトヲ言ツテ、恰モ治外法權、幕府的存在ヲ明カニ致シタ(拍手)此ノ幕府的存在ヲ明カニ致シタルガ爲ニ、ソレガ温床トナツテ、過激ナル思想ノ養成所トナリシ感アルコトハ免レナイ(拍手)本院及ビ貴族院ニ於テ既ニ指摘セラレマシタ佐々木某ナル者ノ恐ルベキ思想、恐ルベキ過激ナル思想スラ、宣傳部員ノ名ニ依ツテ東京ノ市中ニ於テ公然講演セラレタ戰慄スベキ事實スラアツタノデアリマス(拍手)私ハ大政翼賛會ノ中ニアリマスル人中ニハ尊敬スベキ紳士アルコトハ認メル、併シナガラ中ニハ何人ガ認メテモ相當ニ危険ナル思想ノ所有者ナリト認メラルル人モナキニアラズト言ハナケレバナラス(拍手)左様ナコトハ洵ニ遺憾ナコトデアリマシテ、是ハ改組ヲナサル機會ニハ此ノ點ニ付テ十分ナ御考慮ニナツテ思想上ノ宣傳ヲ企ツルガ如キ、赤キ思想ノ宣傳ヲ企ツル如キ者ノ翼賛會内ヨリ根絶スルコトヲ政府ニ於テ期セラレタイノデアリマス(拍手)而シテ單ニサウ云フ思想ヲ持つノミデハナクシテ、大政翼賛會ノ存在ハ政府ノ外ニ政府ヲ作ツタヤウナ形ニナリマシタカラ、行政機關トノ

間ニ摩擦ヲ生ジテ居リマス、行政機關トノ間ニ摩擦ヲ生ジテ行政機關ノ滑カナ運用ヲ阻碍シテ居ル、又我が立法院ニ對シテモ其ノ影響ガアル、外部ニ對シテハサウ云フ風デアリ、内部ニ於テハ只今申上グル如キ思想ノ持主ガアリ、ソレガ俗語デ申シマス赤ト黒トノ寄合ヒ、赤ト黒トノ寄合ヒト云フガ如キ所謂内部抗争スラ生ジテ居ルト云フコトハ(拍手)是ハ何ガ原因トナツテ居リマスカト言ヘバ、其ノ本ノ原因ハ全ク強力ナル政治性ヲ持ツテ居リマスガ爲ニ、内外ニ斯様ナ影響ヲ與ヘルコトガ多イノデアリマスカラ、翼賛會カラ強力ナル政治力及ビ所謂政治性ヲ取去ルコトガ内部ノ構成ヲ刷新スル所以デアツテ、萬民翼賛ノ實ヲ擧グル最モ捷徑デアルト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス(拍手)左様ナ意味ニ於キマシテ、教化團體トシテノ必要ハ今日ノ場合ニ於テハ私共之ヲ認メル、其ノ團體ヲ相當働キノ出來ルヤウナ教化團體ヲラシメル必要ヲ私共ハ痛感ヲ致シマス爲ニ、三百万圓ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨スルノ十分デアルト云フコトヲ信ジマシタカラ、此ノ修正案ヲ出シタノデアリマシテ、何ヲ根據ニシテ三百万圓ニ修正致シタカト云フ其ノ内容ハ、次ニ申上ゲル事情ニ依ツテ諒解ヲ請ヒタイノデアリマス

大政翼賛會ノ豫算書ヲ檢討致シマス、此ノ豫算書ノ中ニ先ヅ二ツノ修正の意味ヲ持つト思フノデアリマス、其ノ一ツハ此ノ經費ノ中ニ當然減ラサナケレバナライ性質ノモノガアリマス、又改組ノ結果減ルモノデアリマス、此ノ二ツノ意義ヲ持つト思フノデアリマス、先ヅ當然削減セナケレバナライ點カラ申上ゲマスナラバ、大藏大臣ハ豫算委員會ニ於テモ、本會議ニ於テモ御述ベニナツタコトヲ記憶致スノデアリマスガ、戰時ノ場合一錢一厘ト雖モ無駄ナ經費ハ支出セナイ覺悟デアルト云フコトヲ申サレタ、私ハ此ノ決心ヲ非常ニ喜ブ、河田君ハ多年大藏省ニ在ラレテ財政ノコトニ精通セラレテ、主計局長トシテ實際ニ各省カラ提出シテ來ル所ノ案ヲ仔細ニ檢討セラレタ、私共ハ長イ間豫算委員會ニアツテ、同君ガ會テ主計局長時代細カク豫算ノ内容ヲ調査セラレテ居ルコトニ尊敬ヲ拂ツタ一人デアアル、其ノ人ガ今日大藏大臣ニナツテ居ルノデアリマスカラ、此ノ大政翼賛會ノ豫算ニ承認ヲ與ヘル場合ハ仔細ニ檢討セラレテ、一錢一厘ト雖モ苟クモセナイ覺悟ノ下ニ承認ヲ與ヘラレタルモノト思ヒキヤ、焉ンゾ知ラン、杜撰極マル此ノ大政翼賛會ノ豫算ヲ、斯クモ大膽ニ承認セラレタコトニ對シテハ、私ハ驚カザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)何ガ故ニ私ハ驚カザルヲ得ナイカト申シマスレバ、先ヅ給與ニ關スルコトデアリマス、給與ニ關スルコトハ、行政各官廳ノ官吏ニ對シマス

ル給與ノ物差ヲ當テル所ノ大藏大臣トシテハ、其ノ物差ノ當テ方ガ極メテ公正デナケレバナラス、偏頗ガアツテハナラス、偏頗ガアツテハ他ノ者ハ聽カナイカラ、物差ノ當テ方ガ如何ニモ公正デアアル、誰ガ見テモ公正デアルト云フ所ニ物差ガ當テラレナケレバナラス、今日下級官吏ハ物價騰貴ノ爲ニ惱ンデ居リマシテ、之ニ對シマスル給與ヲ改善シナケレバナラス必要モ起ツテ居ル、其ノ必要ハ認識シツツモソレヲ改善出來ナイノハ何ガ故デアアルカト言ヘバ、給與ヲ上ゲレバ低物價政策ニ反スルカラ、此ノ見地カラ先ヅ今ハ低イケレドモ、我慢ヲシテ呉レト言ツテ、大藏省ハ當然物價騰貴ト共ニ給與ヲ厚ウシナケレバナラスコトモシナイデ居ル、本年ノ議會ニ小學校教員ノ臨時手当ヲ殖ヤシタノハ非常ナ英斷デアツタノデアリマスケレドモ、是同ジデアアル、警察官吏ノ下級ノ者デアルトカ、或ハ市町村吏員デアルトカ、或ハ司法省部内ニ於ケル下級ノ吏員デアルトカ、又各官廳ノ下級ノ者ニ對シテ與ヘナケレバナラスノデアルト云フヤウナ要求ガアツテ、之ニ對シテモ考慮ヲ拂ハナケレバナラスト云フコトヲ言ハレタノデアアルガ、是ハ只今申上ゲル如ク臨時デアアル、極メテ暫定的ナモノシカ渡セナイ、其ノ暫定的ナモノニシテ置カナケレバナラスト云フノハ、一タビ給與ヲ永久ニ渡スモノトスレバ、其ノ豫算ノ上ニ及ボス

關係、財政ニ及ボス關係、物價ニ與フル關係等ヲ考慮セラレテ、容易ニヤラレナイノガ今日ノ情勢ナノデアル、而シテ其ノ給與ハ警部補以下巡查ノ俸給ハ平均ニシテ僅カニ月五十五圓、市町村吏員ノ平均俸給ハ月五十三圓、町村吏員ノ平均俸給ハ僅カニ月三十七圓、斯ウ云フ薄給ニ甘シジテ國家事務ノ遂行ニ任ジテ居ル、然ルニ大政翼贊會ノ給與令ニ依ルモノハ、上ハ局長ヨリ下ハ給仕ニ至ルマデノ平均シテ月額ガ百四十六圓デアルト云フニ至ツテハ、斯様ナ物差ヲ當テテ大政翼贊會ダケガ、治外法權的立場ニ於テ許サレルト云フコトヲ以テ、吏道ノ刷新肅正ハ如何ニシテ行ハレルノデアルカ、況ヤ經理新制令ナルモノヲ發布シテ、銀行諸會社ニ對シテハ大學ヲ卒業シタ者ハ是レノノ月給、是レ以上ハ與ヘテハナラヌト云フ、又判任官ハ一年以内ニ昇給ハ許サヌト云フ、サウ云フ嚴格ナ規定ノ下ニ置カレテ居ルノデアルノニ、獨リ大政翼贊會ノミガドウ云フ理由デ、ドウ云フ根據デ、斯カル高キ俸給ヲ與ヘラレルノデアルカ、吾々ハ此ノ問題ヲ指摘スル時ニ、人ニ依ツテハ三倍ノ俸給ヲ受ケテ居ル者ガアルカラ、其ノ前任地デ受ケテ俸給ト、大政翼贊會ニ入ツテカラノ俸給トノ關係ヲ、明確ニスル書類ヲ要求致シタニ拘ラズ、此ノ點ニ付テハ提出ヲ拒マレテ、出サナカツタト云フ所ニ蔽フベカラザル所ノ缺點ガアル(拍手)

若シ是ガ斯様ナ指摘シタ事實ニ誤リガナイナラバ、堂々ト御出シニナツテ、吾々ノ疑ヒヲ解クベキガ當然デアルニ拘ラズ、其ノ擧ニ出デズシテ、表ノ上ニ於テ百四十六圓ヲ出シ、或ハ是ハ上級者ガ多クテ、下級者ガ少イカラ、平均率ガ高クナツタナドト云フヤウナ詭辯ヲ弄シテ、之ヲ糊塗セントスルニ至ツテハ、私ハ平素尊敬スル河田君ノ言葉トモ今日ハ受取レナカツタ(拍手)内閣總理大臣以下判任官ニ至ルマデノ俸給ハ、達觀的ニ見テ年額千圓、給仕、小使ヲ入レレバ八百圓ソコノデ、七十圓以内ニナル、地方ニ於テハ六十圓以内デアル、ドウ考ヘマシテモ、倍額以上ノ俸給ヲ翼贊會ニ與ヘテ、之ニ少シモ削減ヲ加ヘラレナカツタ所ニ、私ハ解スベカラザル情實ガ潛シテ居ルト思フノデアル(拍手)殊ニ私ハ、曩ニ挺身シテ事ニ當ルト稱シテ居ル此ノ翼贊會、其ノ翼贊會ニ於テ事務ヲ執ルノニ、一番贅澤ナ建物デアル東京會館ヲ借りルナドト云フコトハ、如何ニモ風教上宜シクナイコトデアルト云フコトヲ申上ゲタ(拍手)是ハ誰ガ考ヘラレテモ、恐ラク此處ニオイデノ皆サンハ、一人トシテ是ハ當然ナリト御認メニナルモノハナイト私ハ思フ(拍手)斯ウ云フ指摘セラレタ事實ハ、吾々が指摘シタ時ニ之ヲ改メテ、豫算ノ時ニハ斯ウ云フ風ニ改善ヲ致シタト云フコトニナツテ來ナケレバナラスノニ拘ラズ、年額二十四萬圓ト云フ借家料

ヲ、少シモ變ヘナイデ出シテ來タ所ニ、吾亦解スベカラザルモノガアル、是ダカラシテ修正ヲシナケレバナラナイ事情ハ、茲ニアリト申サナケレバナラナイ(拍手)

本日ノ委員會ニ於キマシテ、増田委員長カラ御質問ニナツタ、此ノ質問ヲセラレタ裏面ニハ、政界ノ長老タル四參議ガ、非常ニ御心配ニナツテ、此處マデ問題ガ進シダト云フ此ノ點ハ、私共一步ヲ進メタコトニ付テ、其ノ勞ヲ固ヨリ多謝スルモノデアリマス、併シナガラ其ノ内容ヲ見マス時ニ、改組ハスルト言フケレドモ、改組ノ内容モ明確ニナラナケレバ、改組ノ時期モ明確ニナツテ居ナイ、改組ノ時期ヲ明確ニセラレズ、改組ノ内容ヲ明確ニセラレナイデ、ドウシテ私共ハ御賛成ヲ申上ゲラレルカ、御賛成ガ出來ナイ(拍手)如何ニ御賛成ヲ申上ゲタクテモ、改組ノ内容、時期ガ少シモ明確ニナラスノニ、贊成ノシヨウガナイノデアリマス(拍手)而シテ此ノ改組ヲ致スコトニ致シマスレバ、即チ公事結社デアレバ、屢、政府ガ明言ヲ致シテ居リマス如ク、獨立ノ政策ヲ立テナイノデアアル、獨立ノ企畫ヲ持タナイノデアアル、ソレナラバ政策局、企畫局ト云フヤウナモノハ、全ク必要ノナイモノデアリマシテ、是ハ貴族院ニ於テモ、總理大臣ハ考ヘルト仰セラレテ居ツタノデアリマスカラ、何時マデ考ヘテ居ラレナクテモ、四長老ガ御心配ニナツ

タ時ニハ、此ノ位ノコトダケハ、少クトモ御明言ニナツテ然ルベキデアツタト思フノデアリマス(拍手)又議會局ノ如キハ其ノ出來タ時分カラ、私共ハ立法府ノ威信ノ爲ニ、是ハ斷ジテ廢スベキモノデアルト感ジテ居ツタ(拍手)而シテ本日一松君ニ依ツテ指摘セラレマシタ如ク、憲法上、法律上ニ根據ヲ置イテ、職域奉公ノ實ヲ舉ゲヤウト欲スルナラバ、中央協力機關、地方協力機關ノ存在ハ、職域奉公ノ實ヲ舉ゲシムル所ノ一大障礙トナルト云フコトニ對シテハ、政府ハ明カニ然ラズト云フ答辯ヲ與ヘラレテナイノデアリマスカラ、是亦中央地方ノ協力機關ハ、當然廢止セラルベキモノト信ズル(拍手)是アルガ爲ニ政治行動ヲ起シ、摩擦ヲ起シ、地方ニ於ケル所ノ市町村トノ間ニ、非常ナル紛淆ノ原因トナツテ居ルノデアリマスカラ、中央地方ノ協力會議ハ、之ヲ廢スベシト云フ立場ニ於テ、豫算ヲ組ンデ參リマス、三百萬圓デハマダ少シク餘裕ガアツテ、此ノ豫算ノ中ニ六十萬圓ノ豫備費ガアリマスガ、此ノ六十萬圓ノ豫備費ヲ肯定シモテ、三百萬圓デ綽々ノ餘裕アリト云フ案ガ立ツノデアリマス(拍手)斯様ナ見地ニ於テ私共ハ修正ヲ致シタノデアリマス、而シテ大政翼贊會ノ標榜タル所ノ臣道實踐ト云ヒ、職域奉公ト云フコトニ對シマシテハ、私共ハ全幅ノ贊成ヲ致スノデアリマス(拍手)先ヅ職域奉公ノコトニ付テハ、此ノ標榜ノ如ク政府モオヤ

リヲ願ヒタイ、軍人ハ軍人ラシク、政治家ハ政治家ラシク、商人ハ商人ラシク其ノ職域ヲ守ツテ責任ヲ果スト云フ所ニ、所謂職域奉公ノ誠ヲ盡スコトノ必要ガアルコトヲ私ハ痛感スル(拍手)此ノ標榜ノ點ニ付テハ私共全部御同意ヲ申上ゲル、大政翼賛會ノ下意上通、上意下達ト云フコトモ、上意下達ヲスルナラバ政府ガ政府ノ機關ヲ通ジテ之ヲ行フ、下意ヲ上通スルナラバ、帝國議會ヲ通ジテ行フ、市町村或ハ府縣會各、持ツベキ職分ニ於テ其ノ使命ヲ果ス所ヲ得セシメテ之ヲ行フコトガ當然デアツテ、其ノ職分ノ外ニ何等法的基础ヲ有セザル所ノ大政翼賛會ガ容喙スルト云フガ如キハ、抑、誤レルモノデアルト斷ゼナケレバナラス(拍手)而シテ斯様ニスルコトニ依ツテ舉國一致ノ體制ガ作ラレラレデアリマス、臣道實踐ノ實ガ舉ルノデアアル、私ハ今日ノ時代、其ノ責任アル者ガ責任ヲ痛感シテ、職域奉公ノ實ヲ全ウシ、臣道實踐ノ實ヲ舉ゲル、此ノコトヲ果ス爲メニ教化ニ必要ナル行動ヲナス團體トシテ大政翼賛會ノ存在ヲ認メ、之ニ必要ナル經費三百万圓ヲ補助費トシテ給與スルコトニ咨カナラスモノデアリマシテ、是レ修正案ヲ提出スル所以デアリマス(拍手)何卒滿場諸君ノ御贊同アラントヲ偏ニ希望致シマス(拍手)

出ノ修正案ヲ一括シテ採決致シマス、此ノ採決ニ對シマシテハ武知勇記君外五十二名ヨリ、記名投票ヲ以テスベシトノ要求ガアリマス、又川崎克君外四十六名ヨリ、無名投票ヲ以テスベシトノ要求ガアリマス、仍テ記名投票ヲ以テ採決スルヤ、又ハ無名投票ヲ以テ採決スルヤ決定シナケレバナリマセヌ、其ノ何レニスルヤノ採決ハ記名投票ヲ以テ之ヲ決シマス、是ヨリ記名投票ヲ行ヒマス、記名投票ヲ以テ決スルニ贊成ノ諸君ハ白票、反對ノ諸君ハ青票ヲ持參セラレンコトヲ望ミマス(發言スル者アリ)閉鎖——議席第一番ヨリ順次投票セラレンコトヲ望ミマス

(各員投票)

○議長(小山松壽君) 投票漏ハアリマセヌカ——投票漏ナシト認メマス——投票閉鎖——開匣——開鎖

(書記官投票ノ數ヲ計算ス)

○議長(小山松壽君) 投票ノ結果ヲ書記官長ヨリ報告セシメマス

(大木書記官朗讀)

投票總數三百十三
可トスル者 白票 二百五十九
否トスル者 青票 五十四
(拍手起ル)

(參照)

記名投票ヲ以テ決スルヲ可トスル議員ノ氏名左ノ如シ

安倍 寛君	淺井 茂猪君	風見 章君	菊地養之輔君
淺沼稻次郎君	愛野時一郎君	菊池 良一君	岸田 正記君
赤松 克麿君	秋田 清君	北原阿智之助君	北村 文衛君
阿部 茂夫君	綾部健太郎君	木原 七郎君	木村 正義君
井阪 豐光君	井上 良次君	木村作次郎君	木村 淺七君
井上 知治君	池田 秀雄君	清瀨 一郎君	釘本 衛雄君
池崎 忠孝君	池本甚四郎君	工藤十三雄君	窪井 義道君
石井徳久次君	石坂 繁君	熊谷五右衛門君	熊谷 直太君
板野 友造君	伊豆 富人君	久山 知之君	倉元 要一君
伊藤東一郎君	伊藤 五郎君	小泉又次郎君	小池 四郎君
一ノ瀬俊民君	稲田 直道君	小谷 節夫君	小畑虎之助君
岩瀨 亮君	今井 新造君	小林房之助君	小林 絹治君
今井 健彦君	卯尾田毅太郎君	小見山七十五郎君	小山邦太郎君
宇賀 四郎君	内ヶ崎作三郎君	駒井 重次君	河野 密君
内田 信也君	上田 孝吉君	紅露 昭君	木暮武太夫君
馬岡 次郎君	江原 三郎君	佐藤謙之輔君	齋藤 直橋君
小川郷太郎君	小笠原三九郎君	佐竹 晴記君	佐藤洋之助君
小高長三郎君	小野 寅吉君	坂田 道男君	坂下仙一郎君
小山田義孝君	大口 喜六君	信太儀右衛門君	澤田 利吉君
大内竹之助君	大島 寅吉君	篠原 陸朗君	篠原 義政君
太田 理一君	大橋清太郎君	清水留三郎君	島田 俊雄君
大本貞太郎君	岡田 忠彦君	庄司 一郎君	清水徳太郎君
岡田喜久治君	加藤鎌五郎君	杉山元治郎君	末松偕一郎君
沖島 鎌三君	加藤 鎌造君	砂田 重政君	助川啓四郎君
加藤 鯛一君	河上 哲太君	添田敬一郎君	鈴木 英雄君
河上丈太郎君	川島正次郎君	曾和 義弑君	曾木 重貴君
川崎巳之太郎君	川崎末五郎君	高橋熊次郎君	高橋圓三郎君
川副 隆君	片岡 恒一君	高橋 義次君	高橋 泰雄君
川俣 清音君	勝田 永吉君	高岡 大輔君	高田 稔平君
勝 正憲君	簡牛 凡夫君	田中 武雄君	高見 之通君
金光 庸夫君			田中 邦治君

田中 万逸君	田中 好君
田村 秀吉君	田子 一民君
田原 春次君	田万 清臣君
田邊 七六君	田代 正治君
多田 滿長君	武知 勇記君
依 孫一君	立川 平君
瀧澤 七郎君	玉野 知義君
高島龜太郎君	陣 軍吉君
津雲 國利君	津崎 尙武君
津原 武君	土倉 宗明君
塚本 三君	鶴 惣市君
手代木隆吉君	寺田 市正君
東郷 實君	豐田 收君
道家齊一郎君	富吉 榮二君
内藤 正剛君	中井 一夫君
中井川 浩君	中島彌團次君
中島知久平君	中村 高一君
中村 梅吉君	中村三之丞君
中田 儀直君	中原 謹司君
中山 福藏君	仲井間宗一君
永江 一夫君	永山 忠則君
長井 源君	長野 高一君
長野 綱良君	長野 長廣君
成島 勇君	西尾 末廣君
西岡竹次郎君	西方 利馬君
西川 貞一君	西田 郁平君
西村金三郎君	野方 次郎君
野口 喜一君	野田 俊作君
則元卯太郎君	服部 崎市君
原 玉重君	原 夫次郎君

長谷 長次君	羽田武嗣郎君
馬場 元治君	濱地 文平君
原 惣兵衛君	春名 成章君
匹田 銳吉君	肥田 琢司君
平川松太郎君	廣川 弘禪君
福井 甚三君	古田喜三太君
古屋 慶隆君	藤生安太郎君
藤本 捨助君	深澤 吉平君
本田 英作君	松井 郡治君
松尾 三藏君	松浦 伊平君
松浦周太郎君	松川 昌藏君
松田竹千代君	松田喜三郎君
松永 義雄君	松永 東君
松村 光三君	松村 謙三君
松山常次郎君	前田房之助君
前田 米藏君	眞鍋 儀十君
増田 義一君	増永 元也君
町田 忠治君	三浦 虎雄君
三木 武夫君	三宅 正一君
三好 英之君	三善 信房君
三輪 壽壯君	宮澤 胤勇君
宮澤 裕君	宮崎 一君
宮本雄一郎君	水谷長三郎君
村上 元吉君	村上 國吉君
村瀬 武男君	森 肇君
森下 國雄君	森田 福市君
森田重次郎君	最上 政三君
山田 清君	山本 厚三君
山本 条吉君	山本 芳治君
山元龜次郎君	山崎達之輔君

山崎 鋳二君	山道 襄一君
八木 逸郎君	八並 武治君
行吉 角治君	吉田 賢一君
米窪 滿亮君	依光 好秋君
渡邊玉三郎君	渡邊 泰邦君
渡邊 健君	
芦田 均君	池田七郎兵衛君
池田 清秋君	石坂 豊一君
板谷 順助君	一宮房治郎君
猪野毛利榮君	植原悦二郎君
江藤源九郎君	小野 謙一君
大石 倫治君	大石 大君
大野 伴陸君	岡崎久次郎君
岡崎 憲君	川崎 克君
片山 哲君	漢那 憲和君
笠井 重治君	北 吟吉君
工藤 鐵男君	木槍三四郎君
鈴木憲太郎君	鈴木 文治君
世耕 弘一君	高橋壽太郎君
田中 亮一君	田中 耕君
土屋清三郎君	中野 寅吉君
中野 邦一君	名川 侃市君
服部 岩吉君	林 讓治君
林 平馬君	鳩山 一郎君
原口初太郎君	坂東幸太郎君
平野 力三君	福田關次郎君
古島 義英君	本田彌市郎君
堀内 良平君	松木 弘君
眞鍋 勝君	牧野 良三君
牧山 耕藏君	丸山辨三郎君

否トスル議員ノ氏名左ノ如シ

宮脇 長吉君 森 幸太郎君
栗山 博君 百瀬 渡君
山田 六郎君 若宮 貞夫君

○議長(小山松壽君) 右ノ結果修正案ノ採決ハ、記名投票ヲ以テ採決スルコトニ決シマシク

(拍手起ル)

○議長(小山松壽君) 是ヨリ記名投票ヲ行ヒマス、川崎君外二名提出ノ兩修正案ニ贊成ノ諸君ハ白票 反對ノ諸君ハ青票ヲ持參セラレンコトヲ望ミマス——閉鎖——議席第一番ヨリ順次投票セラレンコトヲ望ミマス

(各員投票)

○議長(小山松壽君) 投票漏ハアリマセヌカ——投票漏ナシト認メマス——投票閉鎖——開匣——開鎖

(書記官投票ノ數ヲ計算ス)

○議長(小山松壽君) 投票ノ結果ヲ書記官長ヨリ報告セシメマス

(大木書記官朗讀)

投票總數 三百十三

可トスル者 白票 五十四

否トスル者 青票 二百五十九

(拍手起ル)

(參照)

川崎克君外二名提出兩修正案ヲ可トスル議員ノ氏名左ノ如シ

芦田 均君 池田 清秋君
飯村 五郎君 石坂 豊一君

板谷 順助君	一宮房治郎君	赤松 克麿君	秋田 清君	笠井 重治君	風見 章君	田中 万逸君	田中 好君
猪野毛利榮君	植原悦二郎君	阿部 茂夫君	綾部健太郎君	菊地養之輔君	菊池 良一君	田村 秀吉君	田子 一民君
江藤源九郎君	小野 謙一君	井阪 豐光君	井上 良次君	岸田 正記君	北原阿智之助君	田原 春次君	田万 清臣君
大石 倫治君	大石 大君	井上 知治君	池田七郎兵衛君	北村 文衛君	木原 七郎君	田邊 七六君	田代 正治君
大野 伴睦君	岡崎久次郎君	池田 秀雄君	池崎 忠孝君	木村 正義君	木村作次郎君	多田 滿長君	武知 勇記君
岡崎 憲君	川崎 克君	池本甚四郎君	石井德久次君	木村 淺七君	清瀨 一郎君	依 孫一君	立川 平君
片山 哲君	漢那 憲和君	石坂 繁君	板野 友造君	釘本 衛雄君	工藤十三雄君	瀧澤 七郎君	陣 軍吉君
北 吟吉君	工藤 鐵男君	伊豆 富人君	伊藤東一郎君	窪井 義道君	熊谷五右衛門君	高島龜太郎君	陣 軍吉君
木楡三四郎君	鈴木憲太郎君	伊藤 五郎君	一ノ瀬俊民君	熊谷 直太君	久山 知之君	高島龜太郎君	陣 軍吉君
鈴木 文治君	世耕 弘一君	稻田 直道君	岩瀨 亮君	小泉又次郎君	小池 四郎君	津雲 國利君	津崎 尙武君
高橋壽太郎君	高岡 大輔君	今井 新造君	今井 健彦君	小谷 節夫君	小畑虎之助君	津原 武君	土倉 宗明君
田中 亮一君	田中 耕君	卯尾田毅太郎君	宇賀 四郎君	小林房之助君	小林 絹治君	塚本 三君	鶴 惣市君
土屋清三郎君	中野 寅吉君	内ヶ崎作三郎君	内田 信也君	小見山七十五郎君	小山邦太郎君	東郷 實君	豐田 收君
中野 邦一君	名川 侃市君	上田 孝吉君	馬岡 次郎君	駒井 重次君	河野 密君	道家齊一郎君	富吉 榮二君
服部 岩吉君	林 讓治君	江原 三郎君	小川郷太郎君	紅露 昭君	齋藤 直橋君	内藤 正剛君	中井 一夫君
林 平馬君	鳩山 一郎君	小笠原三九郎君	小高長三郎君	佐藤謙之輔君	佐藤洋之助君	中井川 浩君	中島彌圓次君
原口初太郎君	坂東幸太郎君	小野 寅吉君	小山田義孝君	佐竹 晴記君	坂下仙一郎君	中島知久平君	中村 高一君
平野 力三君	福田關次郎君	小山倉之助君	大口 喜六君	坂田 道男君	澤田 利吉君	中村 梅吉君	中村三之丞君
古島 義英君	本田彌市郎君	大内竹之助君	大島 寅吉君	坂田 道男君	篠原 義政君	中田 儀直君	中原 謹司君
堀内 良平君	松木 弘君	太田 理一君	大藤清太郎君	篠原 陸朗君	島田 俊雄君	中山 福藏君	仲井間宗一君
眞鍋 勝君	牧野 良三君	大本貞太郎君	岡田 忠彦君	清水留三郎君	清水德太郎君	永江 一夫君	永山 忠則君
牧山 耕藏君	丸山辨三郎君	岡田喜久治君	加藤鎌五郎君	清水留三郎君	末松借一郎君	長井 源君	長野 高一君
宮脇 長吉君	森 幸太郎君	沖島 鎌三君	加藤 鎌造君	庄司 一郎君	助川啓四郎君	長野 綱良君	長野 長廣君
栗山 博君	百瀬 渡君	加藤 鯛一君	河上 哲太君	砂田 重政君	鈴木 英雄君	成島 勇君	西尾 末廣君
山田 六郎君	若宮 貞夫君	河上丈太郎君	川島正次郎君	添田敬一郎君	曾和 義次君	西岡竹次郎君	西方 利馬君
否トスル議員ノ氏名左ノ如シ		川崎巳之太郎君	川崎末五郎君	高橋圓三郎君	高橋熊次郎君	西川 貞一君	西田 郁平君
青木 作雄君	青木 精一君	川副 隆君	川崎末五郎君	高橋圓三郎君	高橋熊次郎君	西村金三郎君	野方 次郎君
青木 憲三君	安達 謙藏君	川俣 清音君	片岡 恒一君	高橋 泰雄君	高橋 義次君	野口 喜一君	野田 俊作君
安倍 寛君	淺井 茂猪君	勝 正憲君	勝田 永吉君	高田 耘平君	高見 之通君	則元卯太郎君	服部 崎市君
淺沼稻次郎君	愛野時一郎君	金光 廉夫君	簡牛 几夫君	田中 武雄君	田中 邦治君	原 玉童君	原 夫次郎君

官報號外 昭和十六年二月二十三日 衆議院議事速記録第十七號 昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案外七件

長谷 長次君	羽田武嗣郎君
馬場 元治君	濱地 文平君
原 惣兵衛君	春名 成章君
匹田 銳吉君	肥田 琢司君
平川松太郎君	廣川 弘禪君
福井 甚三君	古田喜三太君
古屋 慶隆君	藤生安太郎君
藤本 捨助君	深澤 吉平君
本田 英作君	松井 郡治君
松尾 三藏君	松浦 伊平君
松浦周太郎君	松川 昌藏君
松田竹千代君	松田喜三郎君
松永 義雄君	松永 東君
松村 光三君	松村 謙三君
松山常次郎君	前田房之助君
前田 米藏君	眞鍋 儀十君
増田 義一君	増永 元也君
町田 忠治君	三浦 虎雄君
三木 武夫君	三宅 正一君
三好 英之君	三善 信房君
三輪 壽壯君	宮澤 胤勇君
宮澤 裕君	宮崎 一君
宮本雄一郎君	水谷長三郎君
村上 元吉君	村上 國吉君
村瀬 武男君	森 肇君
森下 國雄君	森田 福市君
森田重次郎君	最上 政三君
山田 清君	山本 厚三君

山本 条吉君 山本 芳治君

山元龍次郎君 山崎達之輔君

山崎 銀二君 山道 襄一君

八木 逸郎君 八並 武治君

行吉 角治君 吉田 賢一君

米窪 滿亮君 依光 好秋君

渡邊玉三郎君 渡邊 泰邦君

渡邊 健君

○議長(小山松壽君) 右ノ結果、川崎君外二名提出ノ兩修正案ハ否決セラレマシタ

次ニ第三號及ビ第一號ノ兩案ヲ、委員長報告ノ通り決スルニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔贊成者起立〕

○議長(小山松壽君) 起立多數、仍テ兩案ハ委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ

(拍手)

次ニ第二號、昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案、特第二號、昭和十五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案、特第三號、昭和十五年度特別會計歳入歳出豫算追加案、特第一號、豫算外國庫ノ負擔ナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、臨材第一號、臨時陸軍材料資金豫算追加案ノ六案ヲ一括シテ採決致シマス、六案ヲ委員長報告ノ通り決スルニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

(總員起立)

○議長(小山松壽君) 起立總員(拍手)仍テ六案ハ委員長報告ノ通り全會一致可決確定致シマシタ(拍手)

日程第三、昭和十四年度第一豫備金支出ノ件外五件、承諾ヲ求ムル件ヲ議題ト致シマス

河田大藏大臣

昭和十四年度第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件

警察費連帶支辨金等デゴザイマシテ、其ノ總額ハ二千九百九十七萬餘圓デアリマス、各特別會計ニ於キマシテモ、其ノ第一豫備金、又ハ豫備費ヨリ豫算超過ノ支出ヲナシタルモノガアリマス

次ニ昭和十五年度一般會計第二豫備金ノ豫算額ハ八千万圓デゴザイマシマス、其ノ支出ノ主ナル事項ヲ擧ゲマスレバ、食糧増産應急施設諸費、臨時米穀管理施設費、企畫院假廳舎其ノ他火災應急並ニ復舊及ビ新營費外各種災害ニ關スル經費、農産物其ノ他販賣斡旋統制應急施設費、臨時物資販賣統制斡旋費、轉廢業對策施設諸費、臨時家族手當、教員臨時家族手當補助等デアリマシテ、其ノ總額ハ七千九百九十九萬餘圓デアリマス

又各特別會計ニ於キマシテモ、其ノ第二豫備金ヲ以テ豫算外ノ支出ヲナシタルモノト、豫備金外ニ於テ其ノ歳入金又ハ國庫剩餘金ヲ以テ豫算超過、又ハ豫算外ノ支出ヲナシタルモノガアリマス、何卒御審議ノ上承諾ヲ與ヘラレントヲ望ミマス

○服部崎市君 日程第三ハ質疑ヲ省略シテ、議長指名十八名ノ委員ニ付託セラレントヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼ブ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ服部君ノ動議ハ可決サレマシタ、
是ニテ議事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ
議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日
ハ是ニテ散會致シマス
午後八時五十四分散會

衆議院議事速記録第十六號中正誤

頁 段 行 誤 正
二四一 四八 一分 一部

官報號外

昭和十六年二月二十三日

衆議院議事速記録第十七號

二七二